

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	インターンシップ						
担当教員	単位認定者：土肥 伊都子					科目ナンバ-	Z23040
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	将来のキャリアに関連した就業体験を行い、社会で働くことの意義を考える						
授業の概要	企業実習に行く前の事前教育では、まずインターンシップとは何かを理解する。次に仕事への取り組み、ビジネス・マナーなど、心の準備と目的を的確にさせ、実習の効果を高めるようにする。企業での実習体験を通して、社会人として必要な資質を学び、将来自分が何をやりたいのか、それをどう実現するのかを学生が主体的に考え、取り組めるようにサポートする。また自分の将来に必要な仕事へ積極的にチャレンジできるようサポートする。						
到達目標	1. 就業体験を通じて、将来の自立と学生時代の過ごし方を含めた自分のキャリアを主体的に考え実行できるようになる。【態度・志向性】 2. 社会で働く意義を自ら捉え、自己PRや志望動機につなげることができる【態度・志向性】						
授業計画	<p>【事前学習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義&ディスカッション 2. 発表の準備 3. 発表 <p>【夏休み中実習】</p> <p>実習時間は5日間35時間以上を原則とする。</p> <p>【事後学習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. インターンシップの振り返り（業界・業種の特徴、実習体験の成果、今後の就職活動への抱負等） 2. プレゼンテーションの内容のまとめ、掲示物（ポスター）作成 3. 総括 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	ウェブ・新聞などで、常に社会の動きを見る。 一般常識、マナーなどの知識を深める。						
授業方法	企業・団体の職場で就業体験実習を行う。 【実務経験のある教員等による授業】 企業が、学生自身の適性や適職を発見したり、今後のキャリアの形成に役立てたりするために、就業体験を行う。						
評価基準と評価方法	事前レポート（10%）、事後レポート（10%）、事前指導（10%）、事後指導（10%）、実習先の評価（60%）で総合的に判断する。						
履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事前指導・事後指導に必ず参加すること。 2. 研修は、夏休みなどの休暇中に実施するので、日程については各自注意すること。 3. 実習に伴う交通費や宿泊費などは自己負担する。 4. 事前レポート事後レポートの遅延提出、未提出は単位認定不可となります。 5. 履修者の自己都合（病気・ケガなどを含む）及び、天災、実習先の都合などで実習時間が不足した際に、実習先が不足した実習時間を補填できない場合は単位認定不可となります。 6. 登録単位数上限まで履修登録している場合、この科目は履修できません。 						
教科書	なし（必要に応じて資料を配布する）						
参考書	随時紹介する。						

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	エアライン・ホスピタリティ						
担当教員	土肥 伊都子・鷺北 千草					科目ナンバ-	Z22090
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	各部署の業務内容を把握し、どのようなホスピタリティが提供されているかを考える。						
授業の概要	業務の多様性、役割分担、専門性、等、航空業界の特性を知る。 業界各部署が提供しているハードサービス・ソフトサービス（ホスピタリティ）」を学生自身に考えさせ結論を出させる。エアライン業界の役割について考える。						
到達目標	1. エアライン業界を全般的に理解し、エアラインで提供しているサービス部分に焦点をあわせ、エアラインの業務の構成やサービスに必要な要素を理解することができる。【態度・志向性】 2. 自身の適正を見極め、キャリアプランを描くことができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 オリエンテーション：授業履修にあたっての説明、概要説明 第2回 業務の多様性・役割分担・専門性：航空業界の特性を知る 第3回 情報・予約・販売部門①：情報関連部門・営業部門の業務について 第4回 情報・予約・販売部門②：エアラインとお客様を結ぶ予約センター 第5回 空港①：受付・案内【グラウンドスタッフの業務】 第6回 空港②：地上の業務を支える【グラウンドハンドリング業務】 第7回 空港③：整備部門 第8回 空港④：貨物部門 第9回 運航①：運航業務【パイロットの仕事】 第10回 運航②：客室業務1【客室乗務員の役割】 第11回 運航③：客室業務2【客室乗務員のキャリアパス】 第12回 エアラインを支える様々な仕事：ケータリング事業 第13回 観光立国とエアライン：観光立国を目指す日本とエアラインの役割 第14回 まとめ①：総括【第2回から第14回までの内容を復習し知識の定着を図る】 第15回 まとめ②：総括【まとめ①を基に知識の確認を実施する】						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前事前学習：新聞やテレビなどで航空業界関連のニュースはしっかりと情報収集・把握をしておくこと。（学習時間2時間） 授業後学習：配布資料を読み、復習すること。（学習時間2時間）						
授業方法	パワーポイントを使用し講義を行う。 各自、講義終了から次週の講義までの一週間の間で興味を持ったエアライン業界のニュースを一つ取り上げ、ニュース内容となぜ興味を持ったか、自身で考える問題点などをまとめる。講義内で発表し、全員で考察する。 【実務経験のある教員等による授業】 過去にエアライン業界で働いていた講師が業務の現場について指導する。エアラインに関する様々な役割分担の専門性、特性を指導し、将来エアラインのキャリア形成に役立てる講義を展開する。						
評価基準と評価方法	・小レポート30%、第15回まとめレポート50%、授業参加態度・出席20%とし、総合的に判断し評価する。 ・詳細は第1回オリエンテーションで説明するので必ず出席し確認すること。						
履修上の注意	・授業中の各テーマに沿ってレポート作成を行う。授業内容を理解し、受講生自身の考えが自分の言葉で表現できるように講義を受けることを期待する。 ・エアラインの多様な業務を知ること、職業選択の意識を高め将来の視野を広げて頂きたい。 ・欠席は5回までとし（遅刻含む）、それ以上は失格となるため各自で留意しておくこと。 ・夏季エアライン講座を受講希望の際は当該講義を履修のこと。 ・「ホスピタリティ・マネジメント」履修中または履修済の者に限り、履修可能です。						
教科書	テキストは使用しない。毎回レジュメを配布するので各自でファイリングし授業に持参すること。						
参考書							

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	キャリアデザインI						
担当教員	S. Bibby・下方 恵理					科目ナンバ-	Z21010
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	自身のキャリアへの意識を高め、なりたい自分になるためのキャンパスライフの計画を立てます。						
授業の概要	自分や社会を知りながら、「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくる授業です。これから始まる4年間の大学生活をどう過ごすかは、将来に大きな影響を与えます。キャリアデザインIでは、ワークやグループディスカッション等を通して「自分を知る」「社会を知る」「学問とのつながりを考える」ことを中心に、自分（皆さん一人ひとり）にとっていい人生を送るために「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくりまします。この講座を受講して、以下の2点に近づきます。 (1) 社会に出る（就職）ための準備や練習を今のうちから始めることができます。 (2) あなた自身の大学生活をより充実させることができます。						
到達目標	(1) 自分を知ることができます。（態度・志向性） (2) コミュニケーション能力を磨くことができます。（汎用的技能） (3) 目標を立て実行することができます。（態度・志向性）						
授業計画	第1回 キャリアデザインとは？ 第2回 大学生活について考える/PDCAシート①記入 第3回 大学で伸ばしたい力を考える 第4回 自分について考える/PDCAシート②振り返り・記入 第5回 自分をアピールするには？ 第6回 なりたい自分について考える 第7回 大学生基礎力レポート解説 第8回 キャリアセンターガイダンス 第9回 社会について理解する/PDCAシート③振り返り・記入 第10回 業界について理解する 第11回 社会で求められる力 第12回 女性のライフプランを考える 第13回 目標を達成するためには？/PDCAシート④振り返り・記入 第14回 キャンパスライフカレンダー作成 第15回 キャンパスライフカレンダー発表/PDCAシート⑤振り返り・記入						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習 ・社会について知るため、最近のニュースを調べます。（学習時間半期合計7.5時間） 授業後学習 ・授業内で考えた内容を、将来を考えるための素材として、松蔭manabaに入力し保存しておいてください。（学習時間週1時間） ・宿題は都度指示をしますので、授業内容の理解を深めるためにも、必ず期限を守って取り組んで下さい。（学習時間週2時間） ・各自社会人にインタビューをし、指定のワークシートにまとめて報告します。（学習時間半期合計7.5時間）						
授業方法	各テーマについて資料を用いて講義し、それに基づき、グループもしくはペアワークを行った上で、各自課題を提出してください。 【実務経験のある教員等による授業】 キャリア支援サービス事業から講師を招き、講義とワークから成り立つ初年次向けキャリアデザインのテキストを使いながら、1年生を対象としたキャリアデザインを指導する。						
評価基準と評価方法	平常点40%、レポート及びワークシート等の課題提出60%として、総合的に判断します。 ■平常点について ・コミュニケーションシートを提出していただきます。テーマは講師が指定します。 ・コミュニケーションシートの提出が5回以下の場合は、平常点は0点になります。 ・講義への参加態度（積極性、主体性、協調性など）も平常点に含まれますので、参加態度により加点、減点をします。 ■レポートやワークシートについて ・講義で使用するワークシートのうち、講師が指定したものを提出してください。 *具体的な課題内容については講座中に発表し、時間内に提出してもらう予定です。						
履修上の注意	この講座は、皆さん一人ひとりがこれからの人生を豊かにするため、自分に向き合い、仲間とともに学びあう時間でもあります。 学びの環境作りに協力できない場合、成績評価に影響することがありますので、成果を出すために下記のことにご注意し、授業に参加してください。 ①毎回、出席しましょう。 ②毎回ワークがあります。学んだことを確認するためにも、積極的に参加してください。また、宿題が出る場合があります。授業内容の理解を深めるためにも、必ず期限を守って取り組んでください。 ③授業開始前に着席し、時間を守ってください。遅刻は減点の対象とします。 （やむを得ず遅刻となった場合は、静かに入室着席し、必ず終了後に理由を申し出てください。）						

履修上の注意	<p>④ペア・グループワークでの発言は積極的に行ってください。 「聴く・話す」のメリハリを意識し、私語は慎んでください。 ⑤スマートフォンや携帯電話はマナーモードにして、机の上には出さずに、鞆の中に入れてください。 ⑥講義中にむやみに退出しないでください。 (やむを得ず退出したい場合は、手を挙げて、理由を申し出てください。) ⑦飲食、化粧等はしないでください。 ⑧手荷物等を机の上に置かず、授業で使用するもののみを机の上に用意してください。 ⑨事情がある場合を除き、授業中は脱帽して下さい。 ⑩その他、講座の運営を乱す等、他の受講生の迷惑になるような行為は慎んでください。</p> <p>また、なりたい自分になるため、この講座の終了後は、キャリアデザインⅡの履修をすることが望ましいです。</p>
教科書	『書き込み式 キャンパスライフデザインBook』(noa出版)
参考書	なし

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	キャリアデザインI						
担当教員	黒木 邦彦・田中 フミヨ					科目ナンバ-	Z21010
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	自身のキャリアへの意識を高め、なりたい自分になるためのキャンパスライフの計画を立てます。						
授業の概要	自分や社会を知りながら、「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくる授業です。これから始まる4年間の大学生活をどう過ごすかは、将来に大きな影響を与えます。キャリアデザインIでは、ワークやグループディスカッション等を通して「自分を知る」「社会を知る」「学問とのつながりを考える」ことを中心に、自分（皆さん一人ひとり）にとっていい人生を送るために「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくります。この講座を受講して、以下の2点に近づきます。 (1) 社会に出る（就職）ための準備や練習を今のうちから始めることができます。 (2) あなた自身の大学生活をより充実させることができます。						
到達目標	(1) 自分を知ることができます。（態度・志向性） (2) コミュニケーション能力を磨くことができます。（汎用的技能） (3) 目標を立て実行することができます。（態度・志向性）						
授業計画	第1回 キャリアデザインとは？ 第2回 大学生活について考える/PDCAシート①記入 第3回 大学で伸ばしたい力を考える 第4回 自分について考える/PDCAシート②振り返り・記入 第5回 自分をアピールするには？ 第6回 なりたい自分について考える 第7回 大学生基礎力レポート解説 第8回 キャリアセンターガイダンス 第9回 社会について理解する/PDCAシート③振り返り・記入 第10回 業界について理解する 第11回 社会で求められる力 第12回 女性のライフプランを考える 第13回 目標を達成するためには？/PDCAシート④振り返り・記入 第14回 キャンパスライフカレンダー作成 第15回 キャンパスライフカレンダー発表/PDCAシート⑤振り返り・記入						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習 ・社会について知るため、最近のニュースを調べます。（学習時間半期合計7.5時間） 授業後学習 ・授業内で考えた内容を、将来を考えるための素材として、松蔭manabaに入力し保存しておいてください。（学習時間週1時間） ・宿題は都度指示をしますので、授業内容の理解を深めるためにも、必ず期限を守って取り組んで下さい。（学習時間週2時間） ・各自社会人にインタビューをし、指定のワークシートにまとめて報告します。（学習時間半期合計7.5時間）						
授業方法	各テーマについて資料を用いて講義し、それに基づき、グループもしくはペアワークを行った上で、各自課題を提出してください。 【実務経験のある教員等による授業】 キャリア支援サービス事業から講師を招き、講義とワークから成り立つ初年次向けキャリアデザインのテキストを使いながら、1年生を対象としたキャリアデザインを指導する。						
評価基準と評価方法	平常点40%、レポート及びワークシート等の課題提出60%として、総合的に判断します。 ■平常点について ・コミュニケーションシートを提出していただきます。テーマは講師が指定します。 ・コミュニケーションシートの提出が5回以下の場合は、平常点は0点になります。 ・講義への参加態度（積極性、主体性、協調性など）も平常点に含まれますので、参加態度により加点、減点をします。 ■レポートやワークシートについて ・講義で使用するワークシートのうち、講師が指定したものを提出してください。 *具体的な課題内容については講座中に発表し、時間内に提出してもらう予定です。						
履修上の注意	この講座は、皆さん一人ひとりがこれからの人生を豊かにするため、自分に向き合い、仲間とともに学びあう時間でもあります。 学びの環境作りに協力できない場合、成績評価に影響することがありますので、成果を出すために下記のことにご注意し、授業に参加してください。 ①毎回、出席しましょう。 ②毎回ワークがあります。学んだことを確認するためにも、積極的に参加してください。また、宿題が出る場合があります。授業内容の理解を深めるためにも、必ず期限を守って取り組んでください。 ③授業開始前に着席し、時間を守ってください。遅刻は減点の対象とします。 （やむを得ず遅刻となった場合は、静かに入室着席し、必ず終了後に理由を申し出てください。）						

履修上の注意	<p>④ペア・グループワークでの発言は積極的に行ってください。 「聴く・話す」のメリハリを意識し、私語は慎んでください。</p> <p>⑤スマートフォンや携帯電話はマナーモードにして、机の上には出さずに、鞆の中に入れてください。</p> <p>⑥講義中にむやみに退出しないでください。 (やむを得ず退出したい場合は、手を挙げて、理由を申し出てください。)</p> <p>⑦飲食、化粧等はしないでください。</p> <p>⑧手荷物等を机の上に置かず、授業で使用するもののみを机の上に用意してください。</p> <p>⑨事情がある場合を除き、授業中は脱帽して下さい。</p> <p>⑩その他、講座の運営を乱す等、他の受講生の迷惑になるような行為は慎んでください。</p> <p>また、なりたい自分になるため、この講座の終了後は、キャリアデザインⅡの履修をすることが望ましいです。</p>
教科書	『書き込み式 キャンパスライフデザインBook』(noa出版)
参考書	なし

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	キャリアデザインI						
担当教員	黒崎 優美・下方 恵理					科目ナンバ-	Z21010
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	自身のキャリアへの意識を高め、なりたい自分になるためのキャンパスライフの計画を立てます。						
授業の概要	自分や社会を知りながら、「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくる授業です。これから始まる4年間の大学生活をどう過ごすかは、将来に大きな影響を与えます。キャリアデザインIでは、ワークやグループディスカッション等を通して「自分を知る」「社会を知る」「学問とのつながりを考える」ことを中心に、自分（皆さん一人ひとり）にとっていい人生を送るために「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくりまします。この講座を受講して、以下の2点に近づきます。 (1) 社会に出る（就職）ための準備や練習を今のうちから始めることができます。 (2) あなた自身の大学生活をより充実させることができます。						
到達目標	(1) 自分を知ることができます。（態度・志向性） (2) コミュニケーション能力を磨くことができます。（汎用的技能） (3) 目標を立て実行することができます。（態度・志向性）						
授業計画	第1回 キャリアデザインとは？ 第2回 大学生活について考える/PDCAシート①記入 第3回 大学で伸ばしたい力を考える 第4回 自分について考える/PDCAシート②振り返り・記入 第5回 自分をアピールするには？ 第6回 なりたい自分について考える 第7回 大学生基礎力レポート解説 第8回 キャリアセンターガイダンス 第9回 社会について理解する/PDCAシート③振り返り・記入 第10回 業界について理解する 第11回 社会で求められる力 第12回 女性のライフプランを考える 第13回 目標を達成するためには？/PDCAシート④振り返り・記入 第14回 キャンパスライフカレンダー作成 第15回 キャンパスライフカレンダー発表/PDCAシート⑤振り返り・記入						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習 ・社会について知るため、最近のニュースを調べます。（学習時間半期合計7.5時間） 授業後学習 ・授業内で考えた内容を、将来を考えるための素材として、松蔭manabaに入力し保存しておいてください。（学習時間週1時間） ・宿題は都度指示をしますので、授業内容の理解を深めるためにも、必ず期限を守って取り組んで下さい。（学習時間週2時間） ・各自社会人にインタビューをし、指定のワークシートにまとめて報告します。（学習時間半期合計7.5時間）						
授業方法	各テーマについて資料を用いて講義し、それに基づき、グループもしくはペアワークを行った上で、各自課題を提出してください。 【実務経験のある教員等による授業】 キャリア支援サービス事業から講師を招き、講義とワークから成り立つ初年次向けキャリアデザインのテキストを使いながら、1年生を対象としたキャリアデザインを指導する。						
評価基準と評価方法	平常点40%、レポート及びワークシート等の課題提出60%として、総合的に判断します。 ■平常点について ・コミュニケーションシートを提出していただきます。テーマは講師が指定します。 ・コミュニケーションシートの提出が5回以下の場合は、平常点は0点になります。 ・講義への参加態度（積極性、主体性、協調性など）も平常点に含まれますので、参加態度により加点、減点をします。 ■レポートやワークシートについて ・講義で使用するワークシートのうち、講師が指定したものを提出してください。 *具体的な課題内容については講座中に発表し、時間内に提出してもらう予定です。						
履修上の注意	この講座は、皆さん一人ひとりがこれからの人生を豊かにするため、自分に向き合い、仲間とともに学びあう時間でもあります。 学びの環境作りに協力できない場合、成績評価に影響することがありますので、成果を出すために下記のことにご注意し、授業に参加してください。 ①毎回、出席しましょう。 ②毎回ワークがあります。学んだことを確認するためにも、積極的に参加してください。また、宿題が出る場合があります。授業内容の理解を深めるためにも、必ず期限を守って取り組んでください。 ③授業開始前に着席し、時間を守ってください。遅刻は減点の対象とします。 （やむを得ず遅刻となった場合は、静かに入室着席し、必ず終了後に理由を申し出てください。）						

履修上の注意	<p>④ペア・グループワークでの発言は積極的に行ってください。 「聴く・話す」のメリハリを意識し、私語は慎んでください。 ⑤スマートフォンや携帯電話はマナーモードにして、机の上には出さずに、鞆の中に入れてください。 ⑥講義中にむやみに退出しないでください。 (やむを得ず退出したい場合は、手を挙げて、理由を申し出てください。) ⑦飲食、化粧等はしないでください。 ⑧手荷物等を机の上に置かず、授業で使用するもののみを机の上に用意してください。 ⑨事情がある場合を除き、授業中は脱帽して下さい。 ⑩その他、講座の運営を乱す等、他の受講生の迷惑になるような行為は慎んでください。</p> <p>また、なりたい自分になるため、この講座の終了後は、キャリアデザインⅡの履修をすることが望ましいです。</p>
教科書	『書き込み式 キャンパスライフデザインBook』(noa出版)
参考書	なし

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	キャリアデザインI						
担当教員	戸田 賀志子・石川 恵美子					科目ナンバ-	Z21010
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	自身のキャリアへの意識を高め、なりたい自分になるためのキャンパスライフの計画を立てます。						
授業の概要	自分や社会を知りながら、「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくる授業です。これから始まる4年間の大学生活をどう過ごすかは、将来に大きな影響を与えます。キャリアデザインIでは、ワークやグループディスカッション等を通して「自分を知る」「社会を知る」「学問とのつながりを考える」ことを中心に、自分(皆さん一人ひとり)にとっていい人生を送るために「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくります。この講座を受講して、以下の2点に近づきます。 (1)社会に出る(就職)ための準備や練習を今のうちから始めることができます。 (2)あなた自身の大学生活をより充実させることができます。						
到達目標	(1)自分を知ることができます。(態度・志向性) (2)コミュニケーション能力を磨くことができます。(汎用的技能) (3)目標を立て実行することができます。(態度・志向性)						
授業計画	第1回 キャリアデザインとは？ 第2回 大学生活について考える/PDCAシート①記入 第3回 大学で伸ばしたい力を考える 第4回 自分について考える/PDCAシート②振り返り・記入 第5回 自分をアピールするには？ 第6回 なりたい自分について考える 第7回 大学生基礎力レポート解説 第8回 キャリアセンターガイダンス 第9回 社会について理解する/PDCAシート③振り返り・記入 第10回 業界について理解する 第11回 社会で求められる力 第12回 女性のライフプランを考える 第13回 目標を達成するためには？/PDCAシート④振り返り・記入 第14回 キャンパスライフカレンダー作成 第15回 キャンパスライフカレンダー発表/PDCAシート⑤振り返り・記入						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習 ・社会について知るため、最近のニュースを調べます。(学習時間半期合計7.5時間) 授業後学習 ・授業内で考えた内容を、将来を考えるための素材として、松蔭manabaに入力し保存しておいてください。(学習時間週1時間) ・宿題は都度指示をしますので、授業内容の理解を深めるためにも、必ず期限を守って取り組んで下さい。(学習時間週2時間) ・各自社会人にインタビューをし、指定のワークシートにまとめて報告します。(学習時間半期合計7.5時間)						
授業方法	各テーマについて資料を用いて講義し、それに基づき、グループもしくはペアワークを行った上で、各自課題を提出してください。 【実務経験のある教員等による授業】 キャリア支援サービス事業から講師を招き、講義とワークから成り立つ初年次向けキャリアデザインのテキストを使いながら、1年生を対象としたキャリアデザインを指導する。						
評価基準と評価方法	平常点40%、レポート及びワークシート等の課題提出60%として、総合的に判断します。 ■平常点について ・コミュニケーションシートを提出していただきます。テーマは講師が指定します。 ・コミュニケーションシートの提出が5回以下の場合は、平常点は0点になります。 ・講義への参加態度(積極性、主体性、協調性など)も平常点に含まれますので、参加態度により加点、減点をします。 ■レポートやワークシートについて ・講義で使用するワークシートのうち、講師が指定したものを提出してください。 *具体的な課題内容については講座中に発表し、時間内に提出してもらう予定です。						
履修上の注意	この講座は、皆さん一人ひとりがこれからの人生を豊かにするため、自分に向き合い、仲間とともに学びあう時間でもあります。 学びの環境作りに協力できない場合、成績評価に影響することがありますので、成果を出すために下記のことにご注意し、授業に参加してください。 ①毎回、出席しましょう。 ②毎回ワークがあります。学んだことを確認するためにも、積極的に参加してください。また、宿題が出る場合があります。授業内容の理解を深めるためにも、必ず期限を守って取り組んでください。 ③授業開始前に着席し、時間を守ってください。遅刻は減点の対象とします。 (やむを得ず遅刻となった場合は、静かに入室着席し、必ず終了後に理由を申し出てください。)						

履修上の注意	<p>④ペア・グループワークでの発言は積極的に行ってください。 「聴く・話す」のメリハリを意識し、私語は慎んでください。 ⑤スマートフォンや携帯電話はマナーモードにして、机の上には出さずに、鞆の中に入れてください。 ⑥講義中にむやみに退出しないでください。 (やむを得ず退出したい場合は、手を挙げて、理由を申し出てください。) ⑦飲食、化粧等はしないでください。 ⑧手荷物等を机の上に置かず、授業で使用するもののみを机の上に用意してください。 ⑨事情がある場合を除き、授業中は脱帽して下さい。 ⑩その他、講座の運営を乱す等、他の受講生の迷惑になるような行為は慎んでください。</p> <p>また、なりたい自分になるため、この講座の終了後は、キャリアデザインⅡの履修をすることが望ましいです。</p>
教科書	『書き込み式 キャンパスライフデザインBook』(noa出版)
参考書	なし

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	キャリアデザインI						
担当教員	林 直哉・福嶋 ゆい					科目ナンバ-	Z21010
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	自身のキャリアへの意識を高め、なりたい自分になるためのキャンパスライフの計画を立てます。						
授業の概要	自分や社会を知りながら、「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくる授業です。これから始まる4年間の大学生活をどう過ごすかは、将来に大きな影響を与えます。キャリアデザインIでは、ワークやグループディスカッション等を通して「自分を知る」「社会を知る」「学問とのつながりを考える」ことを中心に、自分（皆さん一人ひとり）にとっていい人生を送るために「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくります。この講座を受講して、以下の2点に近づきます。 (1) 社会に出る（就職）ための準備や練習を今のうちから始めることができます。 (2) あなた自身の大学生活をより充実させることができます。						
到達目標	(1) 自分を知ることができます。（態度・志向性） (2) コミュニケーション能力を磨くことができます。（汎用的技能） (3) 目標を立て実行することができます。（態度・志向性）						
授業計画	第1回 キャリアデザインとは？ 第2回 大学生活について考える/PDCAシート①記入 第3回 大学で伸ばしたい力を考える 第4回 自分について考える/PDCAシート②振り返り・記入 第5回 自分をアピールするには？ 第6回 なりたい自分について考える 第7回 大学生基礎力レポート解説 第8回 キャリアセンターガイダンス 第9回 社会について理解する/PDCAシート③振り返り・記入 第10回 業界について理解する 第11回 社会で求められる力 第12回 女性のライフプランを考える 第13回 目標を達成するためには？/PDCAシート④振り返り・記入 第14回 キャンパスライフカレンダー作成 第15回 キャンパスライフカレンダー発表/PDCAシート⑤振り返り・記入						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習 ・社会について知るため、最近のニュースを調べます。（学習時間半期合計7.5時間） 授業後学習 ・授業内で考えた内容を、将来を考えるための素材として、松蔭manabaに入力し保存しておいてください。（学習時間週1時間） ・宿題は都度指示をしますので、授業内容の理解を深めるためにも、必ず期限を守って取り組んで下さい。（学習時間週2時間） ・各自社会人にインタビューをし、指定のワークシートにまとめて報告します。（学習時間半期合計7.5時間）						
授業方法	各テーマについて資料を用いて講義し、それに基づき、グループもしくはペアワークを行った上で、各自課題を提出してください。 【実務経験のある教員等による授業】 キャリア支援サービス事業から講師を招き、講義とワークから成り立つ初年次向けキャリアデザインのテキストを使いながら、1年生を対象としたキャリアデザインを指導する。						
評価基準と評価方法	平常点40%、レポート及びワークシート等の課題提出60%として、総合的に判断します。 ■平常点について ・コミュニケーションシートを提出していただきます。テーマは講師が指定します。 ・コミュニケーションシートの提出が5回以下の場合は、平常点は0点になります。 ・講義への参加態度（積極性、主体性、協調性など）も平常点に含まれますので、参加態度により加点、減点をします。 ■レポートやワークシートについて ・講義で使用するワークシートのうち、講師が指定したものを提出してください。 *具体的な課題内容については講座中に発表し、時間内に提出してもらう予定です。						
履修上の注意	この講座は、皆さん一人ひとりがこれからの人生を豊かにするため、自分に向き合い、仲間とともに学びあう時間でもあります。 学びの環境作りに協力できない場合、成績評価に影響することがありますので、成果を出すために下記のことにご注意し、授業に参加してください。 ①毎回、出席しましょう。 ②毎回ワークがあります。学んだことを確認するためにも、積極的に参加してください。また、宿題が出る場合があります。授業内容の理解を深めるためにも、必ず期限を守って取り組んでください。 ③授業開始前に着席し、時間を守ってください。遅刻は減点の対象とします。 （やむを得ず遅刻となった場合は、静かに入室着席し、必ず終了後に理由を申し出てください。）						

履修上の注意	<p>④ペア・グループワークでの発言は積極的に行ってください。 「聴く・話す」のメリハリを意識し、私語は慎んでください。 ⑤スマートフォンや携帯電話はマナーモードにして、机の上には出さずに、鞆の中に入れてください。 ⑥講義中にむやみに退出しないでください。 (やむを得ず退出したい場合は、手を挙げて、理由を申し出てください。) ⑦飲食、化粧等はしないでください。 ⑧手荷物等を机の上に置かず、授業で使用するもののみを机の上に用意してください。 ⑨事情がある場合を除き、授業中は脱帽して下さい。 ⑩その他、講座の運営を乱す等、他の受講生の迷惑になるような行為は慎んでください。</p> <p>また、なりたい自分になるため、この講座の終了後は、キャリアデザインⅡの履修をすることが望ましいです。</p>
教科書	『書き込み式 キャンパスライフデザインBook』(noa出版)
参考書	なし

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	キャリアデザインI						
担当教員	前田 直哉・田中 フミヨ					科目ナンバ-	Z21010
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	自身のキャリアへの意識を高め、なりたい自分になるためのキャンパスライフの計画を立てます。						
授業の概要	自分や社会を知りながら、「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくる授業です。これから始まる4年間の大学生活をどう過ごすかは、将来に大きな影響を与えます。キャリアデザインIでは、ワークやグループディスカッション等を通して「自分を知る」「社会を知る」「学問とのつながりを考える」ことを中心に、自分（皆さん一人ひとり）にとっていい人生を送るために「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくりまします。この講座を受講して、以下の2点に近づきます。 (1) 社会に出る（就職）ための準備や練習を今のうちから始めることができます。 (2) あなた自身の大学生活をより充実させることができます。						
到達目標	(1) 自分を知ることができます。（態度・志向性） (2) コミュニケーション能力を磨くことができます。（汎用的技能） (3) 目標を立て実行することができます。（態度・志向性）						
授業計画	第1回 キャリアデザインとは？ 第2回 大学生活について考える/PDCAシート①記入 第3回 大学で伸ばしたい力を考える 第4回 自分について考える/PDCAシート②振り返り・記入 第5回 自分をアピールするには？ 第6回 なりたい自分について考える 第7回 大学生基礎力レポート解説 第8回 キャリアセンターガイダンス 第9回 社会について理解する/PDCAシート③振り返り・記入 第10回 業界について理解する 第11回 社会で求められる力 第12回 女性のライフプランを考える 第13回 目標を達成するためには？/PDCAシート④振り返り・記入 第14回 キャンパスライフカレンダー作成 第15回 キャンパスライフカレンダー発表/PDCAシート⑤振り返り・記入						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習 ・社会について知るため、最近のニュースを調べます。（学習時間半期合計7.5時間） 授業後学習 ・授業内で考えた内容を、将来を考えるための素材として、松蔭manabaに入力し保存しておいてください。（学習時間週1時間） ・宿題は都度指示をしますので、授業内容の理解を深めるためにも、必ず期限を守って取り組んで下さい。（学習時間週2時間） ・各自社会人にインタビューをし、指定のワークシートにまとめて報告します。（学習時間半期合計7.5時間）						
授業方法	各テーマについて資料を用いて講義し、それに基づき、グループもしくはペアワークを行った上で、各自課題を提出してください。 【実務経験のある教員等による授業】 キャリア支援サービス事業から講師を招き、講義とワークから成り立つ初年次向けキャリアデザインのテキストを使いながら、1年生を対象としたキャリアデザインを指導する。						
評価基準と評価方法	平常点40%、レポート及びワークシート等の課題提出60%として、総合的に判断します。 ■平常点について ・コミュニケーションシートを提出していただきます。テーマは講師が指定します。 ・コミュニケーションシートの提出が5回以下の場合は、平常点は0点になります。 ・講義への参加態度（積極性、主体性、協調性など）も平常点に含まれますので、参加態度により加点、減点をします。 ■レポートやワークシートについて ・講義で使用するワークシートのうち、講師が指定したものを提出してください。 *具体的な課題内容については講座中に発表し、時間内に提出してもらう予定です。						
履修上の注意	この講座は、皆さん一人ひとりがこれからの人生を豊かにするため、自分に向き合い、仲間とともに学びあう時間でもあります。 学びの環境作りに協力できない場合、成績評価に影響することがありますので、成果を出すために下記のことにご注意し、授業に参加してください。 ①毎回、出席しましょう。 ②毎回ワークがあります。学んだことを確認するためにも、積極的に参加してください。また、宿題が出る場合があります。授業内容の理解を深めるためにも、必ず期限を守って取り組んでください。 ③授業開始前に着席し、時間を守ってください。遅刻は減点の対象とします。 （やむを得ず遅刻となった場合は、静かに入室着席し、必ず終了後に理由を申し出てください。）						

履修上の注意	<p>④ペア・グループワークでの発言は積極的に行ってください。 「聴く・話す」のメリハリを意識し、私語は慎んでください。 ⑤スマートフォンや携帯電話はマナーモードにして、机の上には出さずに、鞆の中に入れてください。 ⑥講義中にむやみに退出しないでください。 (やむを得ず退出したい場合は、手を挙げて、理由を申し出てください。) ⑦飲食、化粧等はしないでください。 ⑧手荷物等を机の上に置かず、授業で使用するもののみを机の上に用意してください。 ⑨事情がある場合を除き、授業中は脱帽して下さい。 ⑩その他、講座の運営を乱す等、他の受講生の迷惑になるような行為は慎んでください。</p> <p>また、なりたい自分になるため、この講座の終了後は、キャリアデザインⅡの履修をすることが望ましいです。</p>
教科書	『書き込み式 キャンパスライフデザインBook』(noa出版)
参考書	なし

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	キャリアデザインI						
担当教員	枘井 智英・石川 恵美子					科目ナンバ-	Z21010
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	自身のキャリアへの意識を高め、なりたい自分になるためのキャンパスライフの計画を立てます。						
授業の概要	自分や社会を知りながら、「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくる授業です。これから始まる4年間の大学生活をどう過ごすかは、将来に大きな影響を与えます。キャリアデザインIでは、ワークやグループディスカッション等を通して「自分を知る」「社会を知る」「学問とのつながりを考える」ことを中心に、自分（皆さん一人ひとり）にとっていい人生を送るために「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくります。この講座を受講して、以下の2点に近づきます。 (1) 社会に出る（就職）ための準備や練習を今のうちから始めることができます。 (2) あなた自身の大学生活をより充実させることができます。						
到達目標	(1) 自分を知ることができます。（態度・志向性） (2) コミュニケーション能力を磨くことができます。（汎用的技能） (3) 目標を立て実行することができます。（態度・志向性）						
授業計画	第1回 キャリアデザインとは？ 第2回 大学生活について考える/PDCAシート①記入 第3回 大学で伸ばしたい力を考える 第4回 自分について考える/PDCAシート②振り返り・記入 第5回 自分をアピールするには？ 第6回 なりたい自分について考える 第7回 大学生基礎力レポート解説 第8回 キャリアセンターガイダンス 第9回 社会について理解する/PDCAシート③振り返り・記入 第10回 業界について理解する 第11回 社会で求められる力 第12回 女性のライフプランを考える 第13回 目標を達成するためには？/PDCAシート④振り返り・記入 第14回 キャンパスライフカレンダー作成 第15回 キャンパスライフカレンダー発表/PDCAシート⑤振り返り・記入						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習 ・社会について知るため、最近のニュースを調べます。（学習時間半期合計7.5時間） 授業後学習 ・授業内で考えた内容を、将来を考えるための素材として、松蔭manabaに入力し保存しておいてください。（学習時間週1時間） ・宿題は都度指示をしますので、授業内容の理解を深めるためにも、必ず期限を守って取り組んで下さい。（学習時間週2時間） ・各自社会人にインタビューをし、指定のワークシートにまとめて報告します。（学習時間半期合計7.5時間）						
授業方法	各テーマについて資料を用いて講義し、それに基づき、グループもしくはペアワークを行った上で、各自課題を提出してください。 【実務経験のある教員等による授業】 キャリア支援サービス事業から講師を招き、講義とワークから成り立つ初年次向けキャリアデザインのテキストを使いながら、1年生を対象としたキャリアデザインを指導する。						
評価基準と評価方法	平常点40%、レポート及びワークシート等の課題提出60%として、総合的に判断します。 ■平常点について ・コミュニケーションシートを提出していただきます。テーマは講師が指定します。 ・コミュニケーションシートの提出が5回以下の場合は、平常点は0点になります。 ・講義への参加態度（積極性、主体性、協調性など）も平常点に含まれますので、参加態度により加点、減点をします。 ■レポートやワークシートについて ・講義で使用するワークシートのうち、講師が指定したものを提出してください。 *具体的な課題内容については講座中に発表し、時間内に提出してもらう予定です。						
履修上の注意	この講座は、皆さん一人ひとりがこれからの人生を豊かにするため、自分に向き合い、仲間とともに学びあう時間でもあります。 学びの環境作りに協力できない場合、成績評価に影響することがありますので、成果を出すために下記のことにご注意し、授業に参加してください。 ①毎回、出席しましょう。 ②毎回ワークがあります。学んだことを確認するためにも、積極的に参加してください。また、宿題が出る場合があります。授業内容の理解を深めるためにも、必ず期限を守って取り組んでください。 ③授業開始前に着席し、時間を守ってください。遅刻は減点の対象とします。 （やむを得ず遅刻となった場合は、静かに入室着席し、必ず終了後に理由を申し出てください。）						

履修上の注意	<p>④ペア・グループワークでの発言は積極的に行ってください。 「聴く・話す」のメリハリを意識し、私語は慎んでください。 ⑤スマートフォンや携帯電話はマナーモードにして、机の上には出さずに、鞆の中に入れてください。 ⑥講義中にむやみに退出しないでください。 (やむを得ず退出したい場合は、手を挙げて、理由を申し出てください。) ⑦飲食、化粧等はしないでください。 ⑧手荷物等を机の上に置かず、授業で使用するもののみを机の上に用意してください。 ⑨事情がある場合を除き、授業中は脱帽して下さい。 ⑩その他、講座の運営を乱す等、他の受講生の迷惑になるような行為は慎んでください。</p> <p>また、なりたい自分になるため、この講座の終了後は、キャリアデザインⅡの履修をすることが望ましいです。</p>
教科書	『書き込み式 キャンパスライフデザインBook』(noa出版)
参考書	なし

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	キャリアデザインII						
担当教員	前田 直哉・田中 フミヨ					科目ナンバ-	Z21020
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	なりたい自分になるため、女性としての生き方を考え、社会で求められる基本的スキルを修得します。						
授業の概要	3年冬からの本格的な就職活動に臨む前に、社会で求められる基本的スキルを身につけておくことは、より自分に合った進路選択ができる可能性が高まり、また自信にもつながります。 キャリアデザインIIでは、ワークやグループディスカッション、プレゼンテーション等を通して、「社会で求められる基本的スキル」を修得します。また、これらを大学生活の中で身につけられるように導きます。 この講座を受講することにより、 (1) 社会に出る(就職)ための準備や練習を今のうちから始めることができます。 (2) 女性としての生き方を考え、マナーや敬語、コミュニケーションのケースワークを学ぶことで後の就職活動に役立てることができます。 (3) あなた自身の大学生活をより充実させることができます。						
到達目標	(1) 社会で求められるコミュニケーションを身につけることができます。(汎用的技能) (2) 女性としての生き方を学ぶことができます。(態度・志向性) (3) 内省し成長することができます。(態度・志向性)						
授業計画	第1回 キャリアデザインとは？ 第2回 コミュニケーション①傾聴、アサーション 第3回 印象とマナー 第4回 ビジスマナー 第5回 女性のライフプラン①「おひとりさま」生活 第6回 女性のライフプラン②男と女の「就労」 第7回 女性のライフプラン③ワーママのキャリア 第8回 リーダーシップの在り方 第9回 作文試験対策 第10回 コミュニケーション②インタビュー 第11回 シューカツ体験 第12回 プレスバトル①内容企画 第13回 プレスバトル②発表準備 第14回 プレスバトル③発表 第15回 自立した女性を目指して今からやるべきこと						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習 ・各授業で扱うテーマに関するニュースなど下調べします。(学習時間週1時間) 授業後学習 ・PDCAシートを記入すること。授業内で気づいたこと、学んだことなどを、日々意識し計画を立てること、行動に移すこと、振り返り確認すること、そして改善することが自身の成長に繋がります。(学習時間週2時間) ・各自社会人にインタビューをし、指定のワークシートにまとめて報告します。(学習時間半期合計15時間)						
授業方法	各テーマについて資料を用いて講義し、それに基づき、グループもしくはペアワークを行った上で、各自課題を提出してください。 【実務経験のある教員等による授業】 キャリア支援サービス事業から講師を招き、ワークやグループディスカッション、プレゼンテーション等を通して、ジェネリック・スキルの養成や女性としての生き方考えさせる。						
評価基準と評価方法	平常点40%、レポートやワークシート等の課題提出40%、グループワークやプレゼンテーション・ケースワークへの取り組み20%を基準とし、総合的に判断します。 ①コミュニケーションシートを記入。(40点満点：テーマは講師が指定) コミュニケーションシートの提出が5回以下の場合、平常点は0点になります。 また、講義への参加態度(積極性、主体性、協調性など)もここに含みますので、参加態度がよくない場合は減点をします。 ②講師が指定するワークシートやレポートを提出。(40点満点) *具体的な課題内容については講座中に発表します。 ③グループワークや発表・ケースワークへ取り組み。(20点満点)						
履修上の注意	この講座は、皆さん一人ひとりがこれからの人生を豊かにするため、自分に向き合い、仲間とともに学びあう時間でもあります。 学びの環境作りに協力できない場合、成績評価に影響することがありますので、成果を出すために下記のことにご注意し、授業に参加してください。 ①毎回、出席しましょう。 ②毎回ワークがあります。学んだことを確認するためにも、積極的に参加してください。また、宿題が出る場合があります。授業内容の理解を深めるためにも、必ず期限を守って取り組んでください。 ③授業開始前に着席し、時間を守ってください。遅刻は減点の対象とします。 (やむを得ず遅刻となった場合は、静かに入室着席し、必ず終了後に理由を申し出てください。) ④ペア・グループワークでの発言は積極的に行ってください。						

履修上の注意	「聴く・話す」のメリハリを意識し、私語は慎んでください。 ⑤スマートフォンや携帯電話はマナーモードにして、机の上には出さずに、鞆の中に入れてください。 ⑥講義中にむやみに退出しないでください。 (やむを得ず退出したい場合は、手を挙げて、理由を申し出てください。) ⑦飲食、化粧等はしないでください。 ⑧手荷物等を机の上に置かず、授業で使用するもののみを机の上に用意してください。 ⑨事情がある場合を除き、授業中は脱帽して下さい。 ⑩その他、講座の運営を乱す等、他の受講生の迷惑になるような行為は慎んでください。
教科書	なし
参考書	なし

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	キャリアデザインII						
担当教員	前田 直哉・田中 フミヨ					科目ナンバ-	Z21020
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	なりたい自分になるため、女性としての生き方を考え、社会で求められる基本的スキルを修得します。						
授業の概要	3年冬からの本格的な就職活動に臨む前に、社会で求められる基本的スキルを身につけておくことは、より自分に合った進路選択ができる可能性が高まり、また自信にもつながります。 キャリアデザインIIでは、ワークやグループディスカッション、プレゼンテーション等を通して、「社会で求められる基本的スキル」を修得します。また、これらを大学生活の中で身につけられるように導きます。 この講座を受講することにより、 ①社会に出る（就職）ための準備や練習を今のうちから始めることができます。 ②女性としての生き方を考え、マナーや敬語、コミュニケーションのケースワークを学ぶことで後の就職活動に役立てることができます。 ③あなた自身の大学生活をより充実させることができます。						
到達目標	(1) 社会で求められるコミュニケーションを身につけることができます。（汎用的技能） (2) 女性としての生き方を学ぶことができます。（態度・志向性） (3) 内省し成長することができます。（態度・志向性）						
授業計画	第1回 キャリアデザインとは？ 第2回 コミュニケーション①傾聴、アサーション 第3回 印象とマナー 第4回 ビジネスマナー 第5回 女性のライフプラン①「おひとりさま」生活 第6回 女性のライフプラン②男と女の「就労」 第7回 女性のライフプラン③ワーママのキャリア 第8回 リーダーシップの在り方 第9回 作文試験対策 第10回 コミュニケーション②インタビュー 第11回 シューカツ体験 第12回 プレスバトル①内容企画 第13回 プレスバトル②発表準備 第14回 プレスバトル③発表 第15回 自立した女性を目指して今からやるべきこと						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習 ・各授業で扱うテーマに関するニュースなど下調べします。（学習時間週1時間） 授業後学習 ・PDCAシートを記入すること。授業内で気づいたこと、学んだことなどを、日々意識し計画を立てること、行動に移すこと、振り返り確認すること、そして改善することが自身の成長に繋がります。学習時間週2時間） ・各自社会人にインタビューをし、指定のワークシートにまとめて報告します。（学習時間半期合計15時間）						
授業方法	各テーマについて資料を用いて講義し、それに基づき、グループもしくはペアワークを行った上で、各自課題を提出します。 【実務経験のある教員等による授業】 キャリア支援サービス事業から講師を招き、ワークやグループディスカッション、プレゼンテーション等を通して、ジェネリック・スキルの養成や女性としての生き方考えさせる。						
評価基準と評価方法	平常点40%、レポートやワークシート等の課題提出40%、グループワークやプレゼンテーション・ケースワークへの取り組み20%を基準とし、総合的に判断します。 ①コミュニケーションシートを記入。（40点満点：テーマは講師が指定） コミュニケーションシートの提出が5回以下の場合、平常点は0点になります。 また、講義への参加態度（積極性、主体性、協調性など）もここに含みますので、参加態度がよくない場合は減点をします。 ②講師が指定するワークシートやレポートを提出。（40点満点） *具体的な課題内容については講座中に発表し、時間内に提出していただきます。 ③グループワークや発表・ケースワークへ取り組み。（20点満点）						
履修上の注意	この講座は、皆さん一人ひとりがこれからの人生を豊かにするため、自分に向き合い、仲間とともに学びあう時間でもあります。 学びの環境作りに協力できない場合、成績評価に影響することがありますので、成果を出すために下記のことにご注意し、授業に参加してください。 ①毎回、出席しましょう。 ②毎回ワークがあります。学んだことを確認するためにも、積極的に参加してください。また、宿題が出る場合があります。授業内容の理解を深めるためにも、必ず期限を守って取り組んでください。 ③授業開始前に着席し、時間を守ってください。遅刻は減点の対象とします。						

履修上の注意	(やむを得ず遅刻となった場合は、静かに入室着席し、必ず終了後に理由を申し出てください。) ④ペア・グループワークでの発言は積極的に行ってください。 「聴く・話す」のメリハリを意識し、私語は慎んでください。 ⑤スマートフォンや携帯電話はマナーモードにして、机の上には出さずに、鞆の中に入れてください。 ⑥講義中にむやみに退出しないでください。 (やむを得ず退出したい場合は、手を挙げて、理由を申し出てください。) ⑦飲食、化粧等はしないでください。 ⑧手荷物等を机の上に置かず、授業で使用するもののみを机の上に用意してください。 ⑨事情がある場合を除き、授業中は脱帽して下さい。 ⑩その他、講座の運営を乱す等、他の受講生の迷惑になるような行為は慎んでください。
教科書	なし
参考書	なし

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	キャリアデザイン研究						
担当教員	単位認定者：青谷 実知代					科目ナンバ-	Z23030
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	ゲストスピーカー（現場担当者）から業界・業種の現状を伺い、社会の現場を知ると共に就職活動で活かせる取り組み（志望動機や自己PRを考える）。						
授業の概要	「職業生涯における仕事の経験の連鎖あるいはその蓄積」と定義づけられるキャリアであるが、IT化・グローバル化の進展、産業構造の変化、企業浮沈等、変革が激しい中、キャリアの本質に迫れないことも事実である。そこで、現場で実践を積んでおられる多様な業界・業種から講師をお招きし、広範囲な職業観や勤労観そして問題点を学び、自分自身の成長・発達につなげると共に、「総合知」でキャリアデザインが研究を深めていく。						
到達目標	①職場や地域で活躍する上で必要な知識を身につけることができる。 ②業種と業界の違いを理解し、説明することができる。 ③就職活動で活かせる志望動機や自己PRが書けるようになる。						
授業計画	本講義はそれぞれの講師が下記の講義項目について、1コマずつ担当するオムニバス形式による授業です。この科目はキャリア教育センターが開講するもので、学生に「各業界の現状と今後の展望」を紹介し、「各業界に必要な資質とその涵養」について理解させることを目的とします。 第1回 業界・業種研究を深めキャリアデザインを考える 青谷実知代 第2回 【旅行業界】 第3回 【流通・小売業界】 第4回 【メディア関係】 第5回 未定 第6回 【製造業界(衣服)】 第7回 【社会福祉業界】 第8回 【製造業界(食品)】 第9回 【プライダル業界】 第10回 【小売業界(自動車)】 第11回 【不動産業界】 第12回 【宿泊業界】 第13回 【運輸業界】 第14回 【金融業界】 第15回 業界の様々な取り組みとキャリアデザイン（総まとめ）青谷実知代						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：日頃から新聞や各種業界雑誌を読むように心がける。関心ある業界の傾向をつかむ。【2時間】 授業後学習：学んだ企業の会社概況などを読み、企業の理解を深める。【2時間】						
授業方法	オムニバス形式の講義 【実務経験のある教員等による授業】 毎回各業界（卸小売・製造・サービス・金融等）からゲストスピーカーが、その業界の現状を伝え、就職活動で生かせる知識を指導する。						
評価基準と評価方法	授業毎のレポート（60%）、課題レポート（2回）（40%）						
履修上の注意	大学3年生を対象とする。 ※ただし、その他の学年で聴講希望があれば、事前にキャリアセンターへ連絡すること。 20分以上の遅刻は欠席扱いにする。 講義全体の2/3の出席が確認できない場合は受講資格を失う。						
教科書	なし（必要に応じて資料を配布する）						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	キャリアデザイン研究						
担当教員	単位認定者：青谷 実知代					科目ナンバ-	Z23030
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	ゲストスピーカー（現場担当者）から業界・業種の現状を伺い、社会の現場を知ると共に就職活動で活かせる取り組み（志望動機や自己PRを考える）。						
授業の概要	「職業生涯における仕事の経験の連鎖あるいはその蓄積」と定義づけられるキャリアであるが、IT化・グローバル化の進展、産業構造の変化、企業浮沈等、変革が激しい中、キャリアの本質に迫れないことも事実である。そこで、現場で実践を積んでおられる多様な業界・業種から講師をお招きし、広範囲な職業観や勤労観そして問題点を学び、自分自身の成長・発達につなげると共に、「総合知」でキャリアデザインが研究を深めていく。						
到達目標	①職場や地域で活躍する上で必要な知識を身につけることができる。 ②業種と業界の違いを理解し、説明することができる。 ③就職活動で活かせる志望動機や自己PRが書けるようになる。						
授業計画	<p>本講義はそれぞれの講師が下記の講義項目について、1コマずつ担当するオムニバス形式による授業です。この科目はキャリア教育センターが開講するもので、学生に「各業界の現状と今後の展望」を紹介し、「各業界に必要な資質とその涵養」について理解させることを目的とします。</p> <p>第1回 業界・業種研究を深めキャリアデザインを考える 青谷実知代 第2回 【社会福祉業界】 第3回 【流通業界】 第4回 【製造業界・冷凍食品】 第5回 【旅行業界】 第6回 【製造業界・衣料】 第7回 【小売業界】 第8回 【メディア業界】 第9回 【未定】 第10回 【ブライダル業界】高見栞 第11回 【宿泊業界】(株)神戸ポートピアホテル 第12回 【運輸業界・鉄道】西日本旅客鉄道(株) 第13回 未定 第14回 【銀行業界】(株)みずほフィナンシャルグループ 第15回 業界の様々な取り組みとキャリアデザイン（総まとめ）青谷実知代</p> <p>※未定部分については、決定次第お知らせします。 また、日程が変更になる可能性があります。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：日頃から新聞や業界雑誌を読むよう心がける。関心ある業界の傾向をつかむ。【2時間】 授業後学習：学んだ企業の会社概況などを読み、企業の理解を深める。【2時間】						
授業方法	オムニバス形式の講義 【実務経験のある教員等による授業】 毎回各業界（卸小売・製造・サービス・金融等）からゲストスピーカーが、その業界の現状を伝え、就職活動で生かせる知識を指導する。						
評価基準と評価方法	授業毎のレポート（60%）、課題レポート（2回）（40%）						
履修上の注意	大学3年生を対象とする。 ※ただし、その他の学年で聴講したい場合は、事前にキャリアセンターまで連絡をすること。 20分以上の遅刻は欠席扱いにする。 講義全体の2/3の出席が確認できない場合は受講資格を失う。 積極的に質疑応答をして下さい。						
教科書	なし（必要に応じて資料を配布する）						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	企業・職種・業界の基礎知識／企業の基礎知識						
担当教員	倉島 進					科目ナンバ-	Z22050
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	経済の仕組みと企業、職種、業界の仕組みを理解する。						
授業の概要	<p>社会人としての最低限の知識から就職活動の際に知っているのと得する知識まで厳選して講義します。『経済の仕組み』では、日本経済の仕組みをお金の存在から、政府、企業、個人の役割まで解説します。経済用語は、無理に暗記するのではなく、自然に体得できる様、新聞から最近のニュースを取り上げ、関連する経済・企業用語を解説します。</p> <p>『企業、職種、業界の仕組み』では、株式会社の仕組みから、会社組織、業務内容、業務の流れ、を通じて概略の理解を深めます。就職から退職までの流れや、労働者の権利、企業の社会的責任についても説明します。</p>						
到達目標	日経新聞や日ごろの経済ニュースの内容が理解できる。特に、経済問題についての深く理解することができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション：講義の進め方や、経済、社会、企業の関係について説明します。 2 お金に関する知識：経済を動かす仕組みとしてお金の存在に注目します。 3 お金と経済の知識①：お金によって、物価が変動したり、為替が変動したりする仕組みを考えます。 4 お金と経済の知識②：GDPの仕組みと世界の中における日本の経済的役割を考えます。 5 政府の収入、支出～税金のしくみ：日本政府の財政と税金の仕組みを考えます。 6 会社の業務や社内の取組について：社会の一員として、社会（顧客）に対する働きかけのビデオをみて企業の役割を考えます。 7 さまざまな職種の役割：前回のビデオの内容を受けて、企業内での仕事の分担（職種）について考えます。 8 企業、業種について：さまざまな業種、業界について、社会での役割を検討します。 9 株式のしくみ：株式会社の仕組みにである株主について勉強します。 10 株式会社のしくみ：今までのまとめとして、経済の動きと株式会社の役割のビデオを見ます。 11 社会人として働くための基礎知識：給与や、雇用についての社会のルールについて説明します。 12 ビジネスゲームの解説：次の回からはじまるビジネスゲームの解説をします。 13 ビジネスゲームの実践①：ビジネスゲームをします 14 ビジネスゲームの実践②：ビジネスゲームをします 15 総まとめ：前回のゲームについてディスカッションします。また、女性の働き方を考えます。 <p>講義形式：1・5・9・11・12は講義形式、2～4・7・8はディスカッション形式、6・10・15はビデオ鑑賞、13・14は実習形式</p> <p>今後の経済情勢の変化によっては、講義内容の一部を変更することがあります。 12、13、14回の授業は、適宜織り込んでいきます。（授業の順序が変わります）</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	日ごろから、日経新聞等のニュースに注目しておいてください。（学習時間週1時間）						
授業方法	<p>毎回、次回のテーマについて2つの質問を提供します。このテーマにつき一言を考えて来てもらいます。1テーマのなかから2つから3つ程度とりあげ授業中にその内容について発表してもらいます。（質問には正解はありません。皆さんがどのように考えたかが重要です。思うことをグループで相談して、発表してもらいます。）授業の最後にその日のテーマについてまとめの授業をします。</p> <p>参加型の授業を目指していますので、授業中の発言に対して、加点します。どんどん発言してください。（正解不正解は関係ありません）</p> <p>【実務経験のある教員等による授業】 公認会計士として、監査やアドバイザー業務に携わり、さまざまなタイプのビジネスモデル、仕事のやり方、システム、人材の活用などの実務の経験から、社会人としての基礎知識を参加型で授業を展開する。</p>						
評価基準と評価方法	<p>評価は、授業の出席、授業中の発表、レポートを加味して評価する。 平常点（授業中の発表・授業後の小レポート）50%、期末のレポート50%</p>						
履修上の注意	授業中に出席代わりに感想文（小レポート）を提出してもらおうことがありますので、休んだ場合には、できるだけ友人等に内容を聞き、提出してください。						
教科書	特になし						

参考書	初回授業時に発表する
-----	------------

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	企業・職種・業界の基礎知識／企業の基礎知識						
担当教員	倉島 進					科目ナンバ-	Z22050
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	経済の仕組みと企業、職種、業界の仕組みを理解する。						
授業の概要	<p>社会人としての最低限の知識から就職活動の際に知っているのと得する知識まで厳選して講義します。『経済の仕組み』では、日本経済の仕組みをお金の存在から、政府、企業、個人の役割まで解説します。経済用語は、無理に暗記するのではなく、自然に体得できる様、新聞から最近のニュースを取り上げ、関連する経済・企業用語を解説します。</p> <p>『企業、職種、業界の仕組み』では、株式会社の仕組みから、会社組織、業務内容、業務の流れ、を通じて概略の理解を深めます。就職から退職までの流れや、労働者の権利、企業の社会的責任についても説明します。</p>						
到達目標	日経新聞や日ごろの経済ニュースの内容が理解できる。特に、経済問題についての深く理解することができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション：講義の進め方や、経済、社会、企業の関係について説明します。 2 お金に関する知識：経済を動かす仕組みとしてお金の存在に注目します。 3 お金と経済の知識①：お金によって、物価が変動したり、為替が変動したりする仕組みを考えます。 4 お金と経済の知識②：GDPの仕組みと世界の中における日本の経済的役割を考えます。 5 政府の収入、支出～税金のしくみ：日本政府の財政と税金の仕組みを考えます。 6 会社の業務や社内の取組について：社会の一員として、社会（顧客）に対する働きかけのビデオをみて企業の役割を考えます。 7 さまざまな職種の役割：前回のビデオの内容を受けて、企業内での仕事の分担（職種）について考えます。 8 企業、業種について：さまざまな業種、業界について、社会での役割を検討します。 9 株式のしくみ：株式会社の仕組みにである株主について勉強します。 10 株式会社のしくみ：今までのまとめとして、経済の動きと株式会社の役割のビデオを見ます。 11 社会人として働くための基礎知識：給与や、雇用についての社会のルールについて説明します。 12 ビジネスゲームの解説：次の回からはじまるビジネスゲームの解説をします。 13 ビジネスゲームの実践①：ビジネスゲームをします 14 ビジネスゲームの実践②：ビジネスゲームをします 15 総まとめ：前回のゲームについてディスカッションします。また、女性の働き方を考えます。 <p>講義形式：1・5・9・11・12は講義形式、2～4・7・8はディスカッション形式、6・10・15はビデオ鑑賞、13・14は実習形式</p> <p>今後の経済情勢の変化によっては、講義内容の一部を変更することがあります。 12、13、14回の授業は、適宜織り込んでいきます。（授業の順序が変わります）</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	日ごろから、日経新聞等のニュースに注目しておいてください。（学習時間週1時間）						
授業方法	<p>毎回、次回のテーマについて2つの質問を提供します。このテーマにつき一言を考えて来てもらいます。1テーマのなかから2つから3つ程度とりあげ授業中にその内容について発表してもらいます。（質問には正解はありません。皆さんがどのように考えたかが重要です。思うことをグループで相談して、発表してもらいます。）授業の最後にその日のテーマについてまとめの授業をします。</p> <p>参加型の授業を目指していますので、授業中の発言に対して、加点します。どんどん発言してください。（正解不正解は関係ありません）</p> <p>【実務経験のある教員等による授業】 公認会計士として、監査やアドバイザー業務に携わり、さまざまなタイプのビジネスモデル、仕事のやり方、システム、人材の活用などの実務の経験から、社会人としての基礎知識を参加型で授業を展開する。</p>						
評価基準と評価方法	<p>評価は、授業の出席、授業中の発表、レポートを加味して評価する。 平常点（授業中の発表・授業後の小レポート）50%、期末のレポート50%</p>						
履修上の注意	授業中に出席代わりに感想文（小レポート）を提出してもらおうことがありますので、休んだ場合には、できるだけ友人等に内容を聞き、提出してください。						
教科書	特になし						

参考書	初回授業時に発表する
-----	------------

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	企業・職種・業界の基礎知識／企業の基礎知識						
担当教員	中村 智佐					科目ナンバ-	Z22050
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	経済の仕組みと企業、職種、業界の仕組みを理解する。						
授業の概要	<p>社会人としての最低限の知識から就職活動の際に知っているのと得する知識まで厳選して講義します。</p> <p>『経済の仕組み』では、日本経済の仕組みをお金の存在から、政府、企業、個人の役割まで解説します。経済用語は、無理に暗記するのではなく、自然に体得できる様、新聞から最近のニュースを取り上げ、関連する経済・企業用語を解説します。</p> <p>『企業、職種、業界の仕組み』では、株式会社の仕組みから、会社組織、業務内容、業務の流れ、を通じて概略の理解を深めます。就職から退職までの流れや、労働者の権利、企業の社会的責任についても説明します。</p>						
到達目標	日本経済新聞や日ごろの経済ニュースの内容が理解できる。特に、経済問題についての深く理解することができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション：講義の進め方や、経済、社会、企業の関係について説明します。 2 お金に関する知識：経済を動かす仕組みとしてお金の存在に注目します。 3 お金と経済の知識①：お金によって、物価が変動したり、為替が変動したりする仕組みを考えます。 4 お金と経済の知識②：GDPの仕組みと世界の中における日本の経済的役割を考えます。 5 政府の収入、支出～税金のしくみ：日本政府の財政と税金の仕組みを考えます。 6 会社の業務や社内の取組について：社会の一員として、社会（顧客）に対する働きかけのビデオをみて企業の役割を考えます。 7 さまざまな職種の役割：前回のビデオの内容を受けて、企業内での仕事の分担（職種）について考えます。 8 企業、業種について：さまざまな業種、業界について、社会での役割を検討します。 9 株式のしくみ：株式会社の仕組みにである株主について勉強します。 10 株式会社のしくみ：今までのまとめとして、経済の動きと株式会社の役割のビデオを見ます。 11 社会人として働くための基礎知識：給与や、雇用についての社会のルールについて説明します。 12 ビジネスゲームの解説：次の回からはじまるビジネスゲームの解説をします。 13 ビジネスゲームの実践①：ビジネスゲームをします 14 ビジネスゲームの実践②：ビジネスゲームをします 15 総まとめ：前回のゲームについてディスカッションします。また、女性の働き方を考えます。 <p>講義形式：1・5・9・11・12は講義形式、2～4・7・8はディスカッション形式、6・10・15はビデオ鑑賞、13・14は実習形式</p> <p>今後の経済情勢の変化によっては、講義内容の一部を変更することがあります。 12、13、14回の授業は、適宜織り込んでいきます。（授業の順序が変わります）</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	日ごろから、日経新聞やNHK等のニュースに注目しておいてください。（学習時間週1時間）						
授業方法	<p>毎回、次回のテーマについて2つの質問を提供します。このテーマにつき一言を考えて来てもらいます。1テーマのなかから2つから3つ程度とりあげ授業中にその内容について発表してもらいます。（質問には正解はありません。皆さんがどのように考えたかが重要です。思うことをグループで相談して、発表してもらいます。）授業の最後にその日のテーマについてまとめの授業をします。</p> <p>参加型の授業を目指していますので、授業中の発言に対して、加点します。どんどん発言してください。（正解不正解は関係ありません）</p> <p>【実務経験のある教員等による授業】 公認会計士として、監査やアドバイザー業務に携わり、さまざまなタイプのビジネスモデル、仕事のやり方、システム、人材の活用などの実務の経験から、社会人としての基礎知識を参加型で授業を展開する。</p>						
評価基準と評価方法	評価は、授業の出席、授業中の発表、レポートを加味して評価する。 平常点（授業中の発表・授業後の小レポート）50%、期末のレポート50%						
履修上の注意	授業中に出席代わりに感想文（小レポート）を提出してもらうことがありますので、休んだ場合には、できるだけ友人等に内容を聞き、提出してください。						

教科書	特になし
参考書	初回授業時に発表する。

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	企業・職種・業界の基礎知識／企業の基礎知識						
担当教員	中村 智佐					科目ナンバ-	Z22050
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	経済の仕組みと企業、職種、業界の仕組みを理解する。						
授業の概要	<p>社会人としての最低限の知識から就職活動の際に知っているのと得する知識まで厳選して講義します。</p> <p>『経済の仕組み』では、日本経済の仕組みをお金の存在から、政府、企業、個人の役割まで解説します。経済用語は、無理に暗記するのではなく、自然に体得できる様、新聞から最近のニュースを取り上げ、関連する経済・企業用語を解説します。</p> <p>『企業、職種、業界の仕組み』では、株式会社の仕組みから、会社組織、業務内容、業務の流れ、を通じて概略の理解を深めます。就職から退職までの流れや、労働者の権利、企業の社会的責任についても説明します。</p>						
到達目標	日本経済新聞や日ごろの経済ニュースの内容が理解できる。特に、経済問題についての深く理解することができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション：講義の進め方や、経済、社会、企業の関係について説明します。 2 お金に関する知識：経済を動かす仕組みとしてお金の存在に注目します。 3 お金と経済の知識①：お金によって、物価が変動したり、為替が変動したりする仕組みを考えます。 4 お金と経済の知識②：GDPの仕組みと世界の中における日本の経済的役割を考えます。 5 政府の収入、支出～税金のしくみ：日本政府の財政と税金の仕組みを考えます。 6 会社の業務や社内の取組について：社会の一員として、社会（顧客）に対する働きかけのビデオをみて企業の役割を考えます。 7 さまざまな職種の役割：前回のビデオの内容を受けて、企業内での仕事の分担（職種）について考えます。 8 企業、業種について：さまざまな業種、業界について、社会での役割を検討します。 9 株式のしくみ：株式会社の仕組みにである株主について勉強します。 10 株式会社のしくみ：今までのまとめとして、経済の動きと株式会社の役割のビデオを見ます。 11 社会人として働くための基礎知識：給与や、雇用についての社会のルールについて説明します。 12 ビジネスゲームの解説：次の回からはじまるビジネスゲームの解説をします。 13 ビジネスゲームの実践①：ビジネスゲームをします 14 ビジネスゲームの実践②：ビジネスゲームをします 15 総まとめ：前回のゲームについてディスカッションします。また、女性の働き方を考えます。 <p>講義形式：1・5・9・11・12は講義形式、2～4・7・8はディスカッション形式、6・10・15はビデオ鑑賞、13・14は実習形式</p> <p>今後の経済情勢の変化によっては、講義内容の一部を変更することがあります。 12、13、14回の授業は、適宜織り込んでいきます。（授業の順序が変わります）</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	日ごろから、日経新聞やNHK等のニュースに注目しておいてください。（学習時間週1時間）						
授業方法	<p>毎回、次回のテーマについて2つの質問を提供します。このテーマにつき一言を考えて来てもらいます。1テーマのなかから2つから3つ程度とりあげ授業中にその内容について発表してもらいます。（質問には正解はありません。皆さんがどのように考えたかが重要です。思うことをグループで相談して、発表してもらいます。）授業の最後にその日のテーマについてまとめの授業をします。</p> <p>参加型の授業を目指していますので、授業中の発言に対して、加点します。どんどん発言してください。（正解不正解は関係ありません）</p> <p>【実務経験のある教員等による授業】 公認会計士として、監査やアドバイザー業務に携わり、さまざまなタイプのビジネスモデル、仕事のやり方、システム、人材の活用などの実務の経験から、社会人としての基礎知識を参加型で授業を展開する。</p>						
評価基準と評価方法	<p>評価は、授業の出席、授業中の発表、レポートを加味して評価する。</p> <p>平常点（授業中の発表・授業後の小レポート）50%、期末のレポート50%</p>						
履修上の注意	授業中に出席代わりに感想文（小レポート）を提出してもらうことがありますので、休んだ場合には、できるだけ友人等に内容を聞き、提出してください。						

教科書	特になし
参考書	初回授業時に発表する。

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	ファイナンシャル・プランニング／金融リテラシー						
担当教員	村田 正一					科目ナンバ-	Z22100
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	将来のライフプランを作成し、それに連動する収支・支出計画を考察する。FP技能士3級レベルの社会保険、年金制度、生命保険、資産運用、税等、お金に関する知識を習得する。						
授業の概要	お金に関する知識は、今後人生の中で非常に重要なものである。就職して初めて貰う給料から始まり、自分の人生の保障となる社会保険や年金制度、生命保険、貯蓄としての預貯金や株式等への投資、そして人生の3大資金といわれる子供の教育費、住宅の購入、老後の資金、さらには財産の次世代への移管である贈与や相続などといった形で一生関わりのあるものである。この授業では、これらの知識を広く知るとともに、お金の観点から計画性と希望をもって今後の人生について考えてもらうことを目的としている。						
到達目標	FP技能士3級レベルの知識を習得し、ライフプラン実現のための資金計画をどのように立てていけばいいのか、様々なケースを想定し具体的に立案し、必要が生じれば修正することができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・・・授業の概要説明 2. 【まもる】社会保険の知識その1・・・医療、介護、労働保険について理解する 3. 【まもる】社会保険の知識その2・・・年金制度について理解する 4. 【しる】ライフイベントを知る・・・将来発生する様々な出来事と、どれくらいのお金がかかるかを知る 5. 【しる】ライフプランニングその1（実習）・・・グループでひとつの家庭のライフイベントを考える 6. 【しる】ライフプランニングその2（実習）・・・グループで決定した家庭のライフプランニング表を作成 7. 【しる】ライフプランニングその3（発表）・・・グループ毎に発表し、何故そうなったか考察する 8. 【まもる】リスクマネジメント（生命保険の知識）・・・生命保険のしくみを理解する 9. 【まもる】リスクマネジメント（損害保険の知識）・・・損害保険のしくみを理解する 10. 【ふやす】金融商品のしくみ（各論）・・・預貯金、債券、株式について理解する 11. 【ふやす】金融商品のしくみ（総論）・・・リスクとリターン、資産運用方法を学ぶ 12. 【おさめる】税金の知識・・・所得税のしくみを中心に税金の知識を習得する 13. 【つかう】不動産の知識・・・土地、建物の購入、不動産の関する法律を理解する 14. 【このす】相続に関する知識・・・相続に関する法律上知っておくべき知識や税金について理解する 15. まとめと試験・・・FP3級レベルの試験と評価 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>日頃から新聞、テレビ等で経済に関する記事やニュースに興味を持って接すること（日経平均株価、為替レート、社会保険、税金の情報など）。</p> <p>【授業前準備】当日の授業計画及び講座内容に記載しているキーワードについて、当日を含む直近の新聞記事を読み、下調べをすること（学習時間2時間）。【授業後学習】当日のテキストを基に新聞やFP関連誌等で復習し、「本日のまとめ」を次回授業日に提出する（学習時間2時間）</p>						
授業方法	<p>講義方式、グループワークを交え、テキストにもどづいて授業を行う。</p> <p>【実務経験のある教員等による授業】 1級ファイナンシャル・プランニング技能士（CFP）として実際にライフプランニングに携わる経験を基に3級ファイナンシャル・プランニング資格を目指してケーススタディーを通して指導する。</p>						
評価基準と評価方法	<p>試験成績、課題提出やレポートと授業態度（授業に臨む姿勢）を総合的に評価する。 割合は、試験50%、課題、レポート提出10%、授業態度40%</p>						
履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> 1. 電卓を準備すること。 2. テキストは各回の出席者のみ配布する（欠席の時は、翌週授業時に限り再配布）。 3. 授業回数数の3分の1以上欠席した人は試験の受験資格を失うものとする。 						
教科書	なし						
参考書	第1回の講義で紹介します。						

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	ファイナンシャル・プランニング／金融リテラシー						
担当教員	村田 正一					科目ナンバ-	Z22100
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	将来のライフプランを作成し、それに連動する収支・支出計画を考察する。FP技能士3級レベルの社会保険、年金制度、生命保険、資産運用、税等、お金に関する知識を習得する。						
授業の概要	お金に関する知識は、今後人生の中で非常に重要なものである。就職して初めて貰う給料から始まり、自分の人生の保障となる社会保険や年金制度、生命保険、貯蓄としての預貯金や株式等への投資、そして人生の3大資金といわれる子供の教育費、住宅の購入、老後の資金、さらには財産の次世代への移管である贈与や相続などといった形で一生関わりのあるものである。この授業では、これらの知識を広く知るとともに、お金の観点から計画性と希望をもって今後の人生について考えてもらうことを目的としている。						
到達目標	FP技能士3級レベルの知識を習得し、ライフプラン実現のための資金計画をどのように立てていけばいいのか、様々なケースを想定し具体的に立案し、必要が生じれば修正することができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・・・授業の概要説明 2. 【まもる】社会保険の知識その1・・・医療、介護、労働保険について理解する 3. 【まもる】社会保険の知識その2・・・年金制度について理解する 4. 【しる】ライフイベントを知る・・・将来発生する様々な出来事と、どれくらいのお金がかかるかを知る 5. 【しる】ライフプランニングその1（実習）・・・グループでひとつの家庭のライフイベントを考える 6. 【しる】ライフプランニングその2（実習）・・・グループで決定した家庭のライフプランニング表を作成 7. 【しる】ライフプランニングその3（発表）・・・グループ毎に発表し、何故そうなったか考察する 8. 【まもる】リスクマネジメント（生命保険の知識）・・・生命保険のしくみを理解する 9. 【まもる】リスクマネジメント（損害保険の知識）・・・損害保険のしくみを理解する 10. 【ふやす】金融商品のしくみ（各論）・・・預貯金、債券、株式について理解する 11. 【ふやす】金融商品のしくみ（総論）・・・リスクとリターン、資産運用方法を学ぶ 12. 【おさめる】税金の知識・・・所得税のしくみを中心に税金の知識を習得する 13. 【つかう】不動産の知識・・・土地、建物の購入、不動産の関する法律を理解する 14. 【このす】相続に関する知識・・・相続に関する法律上知っておくべき知識や税金について理解する 15. まとめと試験・・・FP3級レベルの試験と評価 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	日頃から新聞、テレビ等で経済に関する記事やニュースに興味を持って接すること（日経平均株価、為替レート、社会保険、税金の情報など）。 【授業前準備】当日の授業計画及び講座内容に記載しているキーワードについて、当日を含む直近の新聞記事を読み、下調べをすること（学習時間2時間）。 【授業後学習】当日のテキストを基に新聞やFP関連誌等で復習し、「本日のまとめ」を次回授業日に提出する（学習時間2時間）						
授業方法	講義方式、グループワークを交え、テキストにもどづいて授業を行う。 【実務経験のある教員等による授業】 1級ファイナンシャル・プランニング技能士（CFP）として実際にライフプランニングに携わる経験を基に3級ファイナンシャル・プランニング資格を目指してケーススタディーを通して指導する。						
評価基準と評価方法	試験成績、課題提出やレポートと授業態度（授業に臨む姿勢）を総合的に評価する。 割合は、試験50%、課題、レポート提出10%、授業態度40%						
履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> 1. 電卓を準備すること。 2. テキストは各回の出席者のみ配布する（欠席の時は、翌週授業時に限り再配布）。 3. 授業回数数の3分の1以上欠席した人は試験の受験資格を失うものとする。 						
教科書	なし						
参考書	第1回の講義で紹介します。						

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	ファイナンシャル・プランニング／金融リテラシー						
担当教員	村田 正一					科目ナンバ-	Z22100
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	将来のライフプランを作成し、それに連動する収支・支出計画を考察する。FP技能士3級レベルの社会保険、年金制度、生命保険、資産運用、税等、お金に関する知識を習得する。						
授業の概要	お金に関する知識は、今後人生の中で非常に重要なものである。就職して初めて貰う給料から始まり、自分の人生の保障となる社会保険や年金制度、生命保険、貯蓄としての預貯金や株式等への投資、そして人生の3大資金といわれる子供の教育費、住宅の購入、老後の資金、さらには財産の次世代への移管である贈与や相続などといった形で一生関わりのあるものである。この授業では、これらの知識を広く知るとともに、お金の観点から計画性と希望をもって今後の人生について考えてもらうことを目的としている。						
到達目標	FP技能士3級レベルの知識を習得し、ライフプラン実現のための資金計画をどのように立てていけばいいのか、様々なケースを想定し具体的に立案し、必要が生じれば修正することができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・・・授業の概要説明 2. 【まもる】社会保険の知識その1・・・医療、介護、労働保険について理解する 3. 【まもる】社会保険の知識その2・・・年金制度について理解する 4. 【しる】ライフイベントを知る・・・将来発生する様々な出来事と、どれくらいのお金がかかるかを知る 5. 【しる】ライフプランニングその1（実習）・・・グループでひとつの家庭のライフイベントを考える 6. 【しる】ライフプランニングその2（実習）・・・グループで決定した家庭のライフプランニング表を作成 7. 【しる】ライフプランニングその3（発表）・・・グループ毎に発表し、何故そうなったか考察する 8. 【まもる】リスクマネジメント（生命保険の知識）・・・生命保険のしくみを理解する 9. 【まもる】リスクマネジメント（損害保険の知識）・・・損害保険のしくみを理解する 10. 【ふやす】金融商品のしくみ（各論）・・・預貯金、債券、株式について理解する 11. 【ふやす】金融商品のしくみ（総論）・・・リスクとリターン、資産運用方法を学ぶ 12. 【おさめる】税金の知識・・・所得税のしくみを中心に税金の知識を習得する 13. 【つかう】不動産の知識・・・土地、建物の購入、不動産の関する法律を理解する 14. 【このす】相続に関する知識・・・相続に関する法律上知っておくべき知識や税金について理解する 15. まとめと試験・・・FP3級レベルの試験と評価 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	日頃から新聞、テレビ等で経済に関する記事やニュースに興味を持って接すること（日経平均株価、為替レート、社会保険、税金の情報など）。 【授業前準備】当日の授業計画及び講座内容に記載しているキーワードについて、当日を含む直近の新聞記事を読み、下調べをすること（学習時間2時間）。 【授業後学習】当日のテキストを基に新聞やFP関連誌等で復習し、「本日のまとめ」を次回授業日に提出する（学習時間2時間）						
授業方法	講義方式、グループワークを交え、テキストにもどづいて授業を行う。 【実務経験のある教員等による授業】 1級ファイナンシャル・プランニング技能士（CFP）として実際にライフプランニングに携わる経験を基に3級ファイナンシャル・プランニング資格を目指してケーススタディーを通して指導する。						
評価基準と評価方法	試験成績、課題提出やレポートと授業態度（授業に臨む姿勢）を総合的に評価する。 割合は、試験50%、課題、レポート提出10%、授業態度40%						
履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> 1. 電卓を準備すること。 2. テキストは各回の出席者のみ配布する（欠席の時は、翌週授業時に限り再配布）。 3. 授業回数の3分の1以上欠席した人は試験の受験資格を失うものとする。 						
教科書	なし						
参考書	第1回の講義で紹介します。						

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	ホスピタリティ・マネジメント						
担当教員	土肥 伊都子・濱岡 美衣					科目ナンバ-	Z21080
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	ホスピタリティの探求と発揮						
授業の概要	ホスピタリティを様々な角度から取り上げ、これからの産業におけるホスピタリティの重要性を理解し行動につなげる。 現代は様々な場面でホスピタリティの重要性が高まっている。この授業では、エアライン、ホテル、飲食業のサービスや仕事などを題材に取り上げながら、ホスピタリティが生み出す価値の重要性について広く考察していく。また、授業を通じて受講生がホスピタリティの概念について考え、創造できるようになることを目指す。						
到達目標	1. 現代の日本社会において、ホスピタリティの意味と果たす役割を理解することができる。【態度・志向性】 2. ホスピタリティが生み出す要素を理解できる。【態度・志向性】 3. ホスピタリティの概念を理解し、実際に発揮できる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 オリエンテーション：授業履修にあたっての説明 概要説明 第2回 ホスピタリティの原義：ホスピタリティの語源 ホスピタリティとサービスの比較 第3回 ホスピタリティと人間：ホスピタリティの起源 他者理解 第4回 ホスピタリティと文化：ホスピタリティの文化的差異 地域のホスピタリティ 第5回 ホスピタリティと産業Ⅰ：日本のおもてなしを考える（グループディスカッション実施） 第6回 ホスピタリティと産業Ⅱ：エアラインにおけるホスピタリティ～ANAを例に～ 第7回 ホスピタリティとチームワーク：チームワークの重要性 チームの力と個人の力 第8回 ホスピタリティを伝える基本Ⅰ：ホスピタリティとコミュニケーションの関係 第9回 ホスピタリティを伝える基本Ⅱ：異文化コミュニケーションを考える 第10回 言葉で表すホスピタリティ：敬語表現の基礎 社会で活用できる表現 第11回 表現力Ⅰ：非言語コミュニケーションの重要性 表情が与える印象とは 第12回 表現力Ⅱ：ホスピタリティを伝える行動様式 立ち居振る舞い 第13回 事例研究Ⅰ：リッツカールトンに学ぶホスピタリティ 第14回 事例研究Ⅱ：東京ディズニーリゾートのホスピタリティ 第15回 まとめ：全体のまとめと振り返り レポート作成						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業後学習：配付資料を読み、復習すること。（学習時間4時間） 最終的には理解した内容を実生活に取り入れることに繋げるため、毎回の授業を理解し実際に行動化することが大切である。						
授業方法	パワーポイントを使用し講義を行う。 また、授業後半部分はグループワークや実習を行うため各人の積極的な授業参加を期待する。 【実務経験のある教員等による授業】 過去にエアライン業界で働いていた講師が、ホスピタリティ産業の仕事としてのコミュニケーション、行動様式、「おもてなし」の文化などを事例研究やグループディスカッションの形式で指導する。						
評価基準と評価方法	小レポート20%、第15回まとめレポート50%、授業参加態度・出席30%とし、総合的に判断し評価する。 詳細は第1回オリエンテーションで説明するので必ず出席し確認すること。						
履修上の注意	・授業中に各テーマに沿ってレポート作成を行う。授業内容を理解し、受講生自身の考えが自分の言葉で表現できるように講義を受けることを期待する。 ・ホスピタリティをテーマに行うことから常に周囲にホスピタリティを持って行動すること。 ・グループワークや実習に積極的に取り組み、必ず日常生活のあらゆる場面で活用すること。 ・欠席は5回までとし（遅刻含む）、それ以上は失格となるため各自で留意しておくこと。						
教科書	テキストは使用しない。毎回レジュメを配付するので各自でファイリングし授業に持参すること。						
参考書							

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	ホスピタリティ・マネジメント						
担当教員	土肥 伊都子・濱岡 美衣					科目ナンバ-	Z21080
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	ホスピタリティの探求と発揮						
授業の概要	ホスピタリティを様々な角度から取り上げ、これからの産業におけるホスピタリティの重要性を理解し行動につなげる。 現代は様々な場面でホスピタリティの重要性が高まっている。この授業では、エアライン、ホテル、飲食業のサービスや仕事などを題材に取り上げながら、ホスピタリティが生み出す価値の重要性について広く考察していく。また、授業を通じて受講生がホスピタリティの概念について考え、創造できるようになることを目指す。						
到達目標	1. 現代の日本社会において、ホスピタリティの意味と果たす役割を理解することができる。【態度・志向性】 2. ホスピタリティが生み出す要素を理解できる。【態度・志向性】 3. ホスピタリティの概念を理解し、実際に発揮できる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 オリエンテーション：授業履修にあたっての説明 概要説明 第2回 ホスピタリティの原義：ホスピタリティの語源 ホスピタリティとサービスの比較 第3回 ホスピタリティと人間：ホスピタリティの起源 他者理解 第4回 ホスピタリティと文化：ホスピタリティの文化的差異 地域のホスピタリティ 第5回 ホスピタリティと産業Ⅰ：日本のおもてなしを考える（グループディスカッション実施） 第6回 ホスピタリティと産業Ⅱ：エアラインにおけるホスピタリティ～ANAを例に～ 第7回 ホスピタリティとチームワーク：チームワークの重要性 チームの力と個人の力 第8回 ホスピタリティを伝える基本Ⅰ：ホスピタリティとコミュニケーションの関係 第9回 ホスピタリティを伝える基本Ⅱ：異文化コミュニケーションを考える 第10回 言葉で表すホスピタリティ：敬語表現の基礎 社会で活用できる表現 第11回 表現力Ⅰ：非言語コミュニケーションの重要性 表情が与える印象とは 第12回 表現力Ⅱ：ホスピタリティを伝える行動様式 立ち居振る舞い 第13回 事例研究Ⅰ：リッツカールトンに学ぶホスピタリティ 第14回 事例研究Ⅱ：東京ディズニーリゾートのホスピタリティ 第15回 まとめ：全体のまとめと振り返り レポート作成						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業後学習：配付資料を読み、復習すること。（学習時間4時間） 最終的には理解した内容を実生活に取り入れることに繋げるため、毎回の授業を理解し実際に行動化することが大切である。						
授業方法	パワーポイントを使用し講義を行う。 また、授業後半部分はグループワークや実習を行うため各人の積極的な授業参加を期待する。 【実務経験のある教員等による授業】 過去にエアライン業界で働いていた講師が、ホスピタリティ産業の仕事としてのコミュニケーション、行動様式、「おもてなし」の文化などを事例研究やグループディスカッションの形式で指導する。						
評価基準と評価方法	小レポート20%、第15回まとめレポート50%、授業参加態度・出席30%とし、総合的に判断し評価する。 詳細は第1回オリエンテーションで説明するので必ず出席し確認すること。						
履修上の注意	・授業中に各テーマに沿ってレポート作成を行う。授業内容を理解し、受講生自身の考えが自分の言葉で表現できるように講義を受けることを期待する。 ・ホスピタリティをテーマに行うことから常に周囲にホスピタリティを持って行動すること。 ・グループワークや実習に積極的に取り組み、必ず日常生活のあらゆる場面で活用すること。 ・欠席は5回までとし（遅刻含む）、それ以上は失格となるため各自で留意しておくこと。						
教科書	テキストは使用しない。毎回レジュメを配付するので各自でファイリングし授業に持参すること。						
参考書							

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	ホスピタリティ・マネジメント						
担当教員	土肥 伊都子・濱岡 美衣					科目ナンバ-	Z21080
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	ホスピタリティの探求と発揮						
授業の概要	ホスピタリティを様々な角度から取り上げ、これからの産業におけるホスピタリティの重要性を理解し行動につなげる。 現代は様々な場面でホスピタリティの重要性が高まっている。この授業では、エアライン、ホテル、飲食業のサービスや仕事などを題材に取り上げながら、ホスピタリティが生み出す価値の重要性について広く考察していく。また、授業を通じて受講生がホスピタリティの概念について考え、創造できるようになることを目指す。						
到達目標	1. 現代の日本社会において、ホスピタリティの意味と果たす役割を理解することができる。【態度・志向性】 2. ホスピタリティが生み出す要素を理解できる。【態度・志向性】 3. ホスピタリティの概念を理解し、実際に発揮できる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 オリエンテーション：授業履修にあたっての説明 概要説明 第2回 ホスピタリティの原義：ホスピタリティの語源 ホスピタリティとサービスの比較 第3回 ホスピタリティと人間：ホスピタリティの起源 他者理解 第4回 ホスピタリティと文化：ホスピタリティの文化的差異 地域のホスピタリティ 第5回 ホスピタリティと産業Ⅰ：日本のおもてなしを考える（グループディスカッション実施） 第6回 ホスピタリティと産業Ⅱ：エアラインにおけるホスピタリティ～ANAを例に～ 第7回 ホスピタリティとチームワーク：チームワークの重要性 チームの力と個人の力 第8回 ホスピタリティを伝える基本Ⅰ：ホスピタリティとコミュニケーションの関係 第9回 ホスピタリティを伝える基本Ⅱ：異文化コミュニケーションを考える 第10回 言葉で表すホスピタリティ：敬語表現の基礎 社会で活用できる表現 第11回 表現力Ⅰ：非言語コミュニケーションの重要性 表情が与える印象とは 第12回 表現力Ⅱ：ホスピタリティを伝える行動様式 立ち居振る舞い 第13回 事例研究Ⅰ：リッツカールトンに学ぶホスピタリティ 第14回 事例研究Ⅱ：東京ディズニーリゾートのホスピタリティ 第15回 まとめ：全体のまとめと振り返り レポート作成						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業後学習：配付資料を読み、復習すること。（学習時間4時間） 最終的には理解した内容を実生活に取り入れることに繋げるため、毎回の授業を理解し実際に行動化することが大切である。						
授業方法	パワーポイントを使用し講義を行う。 また、授業後半部分はグループワークや実習を行うため各人の積極的な授業参加を期待する。 【実務経験のある教員等による授業】 過去にエアライン業界で働いていた講師が、ホスピタリティ産業の仕事としてのコミュニケーション、行動様式、「おもてなし」の文化などを事例研究やグループディスカッションの形式で指導する。						
評価基準と評価方法	小レポート20%、第15回まとめレポート50%、授業参加態度・出席30%とし、総合的に判断し評価する。 詳細は第1回オリエンテーションで説明するので必ず出席し確認すること。						
履修上の注意	・授業中に各テーマに沿ってレポート作成を行う。授業内容を理解し、受講生自身の考えが自分の言葉で表現できるように講義を受けることを期待する。 ・ホスピタリティをテーマに行うことから常に周囲にホスピタリティを持って行動すること。 ・グループワークや実習に積極的に取り組み、必ず日常生活のあらゆる場面で活用すること。 ・欠席は5回までとし（遅刻含む）、それ以上は失格となるため各自で留意しておくこと。						
教科書	テキストは使用しない。毎回レジュメを配付するので各自でファイリングし授業に持参すること。						
参考書							

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	ホスピタリティ・マネジメント						
担当教員	土肥 伊都子・鷺北 千草					科目ナンバ-	Z21080
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	ホスピタリティの探求と発揮						
授業の概要	ホスピタリティを様々な角度から取り上げ、これからの産業におけるホスピタリティの重要性を理解し行動につなげる。 現代は様々な場面でホスピタリティの重要性が高まっている。この授業では、エアライン、ホテル、飲食業のサービスや仕事などを題材に取り上げながら、ホスピタリティが生み出す価値の重要性について広く考察していく。また、授業を通じて受講生がホスピタリティの概念について考え、創造できるようになることを目指す。						
到達目標	1. 現代の日本社会において、ホスピタリティの意味と果たす役割を理解することができる。【態度・志向性】 2. ホスピタリティが生み出す要素を理解できる。【態度・志向性】 3. ホスピタリティの概念を理解し、実際に発揮できる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 オリエンテーション：授業履修にあたっての説明 概要説明 第2回 ホスピタリティの原義：ホスピタリティの語源 ホスピタリティとサービスの比較 第3回 ホスピタリティと人間：ホスピタリティの起源 他者理解 第4回 ホスピタリティと文化：ホスピタリティの文化的差異 地域のホスピタリティ 第5回 ホスピタリティと産業Ⅰ：日本のおもてなしを考える（グループディスカッション実施） 第6回 ホスピタリティと産業Ⅱ：エアラインにおけるホスピタリティ～ANAを例に～ 第7回 ホスピタリティとチームワーク：チームワークの重要性 チームの力と個人の力 第8回 ホスピタリティを伝える基本Ⅰ：ホスピタリティとコミュニケーションの関係 第9回 ホスピタリティを伝える基本Ⅱ：異文化コミュニケーションを考える 第10回 言葉で表すホスピタリティ：敬語表現の基礎 社会で活用できる表現 第11回 表現力Ⅰ：非言語コミュニケーションの重要性 表情が与える印象とは 第12回 表現力Ⅱ：ホスピタリティを伝える行動様式 立ち居振る舞い 第13回 事例研究Ⅰ：リッツカールトンに学ぶホスピタリティ 第14回 事例研究Ⅱ：東京ディズニーリゾートのホスピタリティ 第15回 まとめ：全体のまとめと振り返り レポート作成						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業後学習：配付資料を読み、復習すること。（学習時間4時間） 最終的には理解した内容を実生活に取り入れることに繋げるため、毎回の授業を理解し実際に行動化することが大切である。						
授業方法	パワーポイントを使用し講義を行う。 また、授業後半部分はグループワークや実習を行うため各人の積極的な授業参加を期待する。 【実務経験のある教員等による授業】 過去にエアライン業界で働いていた講師が、ホスピタリティ産業の仕事としてのコミュニケーション、行動様式、「おもてなし」の文化などを事例研究やグループディスカッションの形式で指導する。						
評価基準と評価方法	小レポート20%、第15回まとめレポート50%、授業参加態度・出席30%とし、総合的に判断し評価する。 詳細は第1回オリエンテーションで説明するので必ず出席し確認すること。						
履修上の注意	・授業中に各テーマに沿ってレポート作成を行う。授業内容を理解し、受講生自身の考えが自分の言葉で表現できるように講義を受けることを期待する。 ・ホスピタリティをテーマに行うことから常に周囲にホスピタリティを持って行動すること。 ・グループワークや実習に積極的に取り組み、必ず日常生活のあらゆる場面で活用すること。 ・欠席は5回までとし（遅刻含む）、それ以上は失格となるため各自で留意しておくこと。						
教科書	テキストは使用しない。毎回レジュメを配付するので各自でファイリングし授業に持参すること。						
参考書							

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	簿記・会計の基礎／簿記・会計A						
担当教員	倉島 進					科目ナンバ-	Z21060
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	企業の経理の仕組みを通じて、必要な簿記の知識を習得する。						
授業の概要	<p>社会には、さまざまな会社があります。会社は儲けるために日々努力しています。これらの会社の活動には、必ずお金が絡んでおり、経営者は、そのお金の動きについて、記録し財務諸表という報告書をつくって報告をしなければなりません。これらの方法は統一された方法があり、その方法が簿記です。言い換えれば、この授業は、会社がどのような活動をし、どのように儲けていくのかについての仕組みを勉強して行きます。</p> <p>簿記・会計の基礎の知識やその基本を生かしつつ、さまざまな企業活動についての記録のパターンを勉強するとともに、実際に報告書を作成します。</p> <p>この授業では、簿記に慣れたしんでもらうために、できるだけやさしい言葉で解説します。</p> <p>特に、就職後、経理として必要な知識を習得することを目的として、いわゆる日常の経理処理が十分にできる力を本講座を通じて習得してもらうことを想定しています。</p> <p>そのため、いわゆる簿記検定試験に出る難しい論点を排除し、簿記の全体像をつかむことを主眼とします。</p> <p>日商簿記3級に挑戦する方は、本講座受講後後期に開講する簿記・会計の実践を続けて受講することをお勧めします。</p>						
到達目標	企業実務において経理担当者レベルの簿記の知識を習得できる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション（簿記とは何か？） 2 簿記の世界へようこそ！ 3 簿記を使って記録してみよう（勘定科目について） 4 簿記を使って記録してみよう（仕訳のしくみ） 5 簿記を使って記録してみよう（集計のしくみ） 6 報告書を作ってみよう（今までのまとめ） 7 現金とはなにか？ 8 商品売上のしくみ 9 商品売上のしくみ実践 10 手形取引 11 固定資産の売買とその処理 12 その場面ではこの仕訳（その他の債権債務） 13 その場面ではこの仕訳（税金について） 14 その場面ではこの仕訳（資本金の話） 15 総まとめと試験 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>予習をするより、毎回の授業の内容を理解するようにテキストを読んでください。</p> <p>参考資料も配布しますので、ぜひやってみてください。（学習時間週1時間）</p>						
授業方法	<p>テキストとして、知る・わかる・うかる はじめての簿記入門』を利用して、授業を進めます。場合によっては、補充プリント等を配布することで、授業の理解度を深めてもらいます。</p> <p>簿記は、積み上げですので、できるかぎり出席をしてください。授業中の演習を含めて、授業中での理解を深めてもらいます。</p> <p>参加型の授業を目指していますので、授業中の発言に対して、加点します。どんどん発言してください。（正解不正解は関係ありません）</p> <p>簿記・会計の実践を続けて受講することで、日本商工会議所主催の簿記検定試験3級の合格レベルへ到達する予定です。</p> <p>【実務経験のある教員等による授業】 公認会計士として、財務諸表を作成に必要な基礎知識として簿記・会計の基礎を指導する。</p>						
評価基準と評価方法	<p>評価は、平常点（授業中の発表、小テスト）、定期試験（前期、後期）を加味して評価する。</p> <p>平常点50%、定期試験50%</p>						
履修上の注意	積み重ねが大切ですので、できる限り出席をすること						
教科書	『知る・わかる・うかる はじめての簿記入門』平成29年2月改定版（セルバ出版） ISBN978-4-86367-283-3						

参考書	初回時に発表する。
-----	-----------

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	簿記・会計の基礎／簿記・会計A						
担当教員	中村 智佐					科目ナンバ-	Z21060
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	企業の経理の仕組みを通じて、必要な簿記の知識を習得する。						
授業の概要	<p>社会には、さまざまな会社があります。会社は儲けるために日々努力しています。これらの会社の活動には、必ずお金が絡んでおり、経営者は、そのお金の動きについて、記録し財務諸表という報告書をつくって報告をしなければなりません。これらの方法は統一された方法があり、その方法が簿記です。言い換えれば、この授業は、会社がどのような活動をし、どのように儲けていくのかについての仕組みを勉強して行きます。</p> <p>簿記・会計の知識やその基本を生かしつつ、さまざまな企業活動についての記録のパターンを勉強するとともに、実際に報告書を作成します。</p> <p>この授業では、簿記に慣れ親しんでもらうために、できるだけやさしい言葉で解説します。特に、就職後、経理として必要な知識を習得することを目的として、いわゆる日常の経理処理が十分にできる力を本講座を通じて習得してもらうことを想定しています。</p> <p>そのため、いわゆる簿記検定試験に出る難しい論点を排除し、簿記の全体像をつかむことを主眼とします。</p> <p>日商簿記3級に挑戦する方は、本講座受講後後期に開講する簿記・会計の実践を続けて受講することをお勧めします。</p>						
到達目標	企業実務において経理担当者レベルの簿記の知識の習得						
授業計画	第1回 オリエンテーション（簿記とは何か？） 第2回 簿記の世界へようこそ！ 第3回 簿記を使って記録してみよう（仕訳の基本的な理解） 第4回 簿記を使って記録してみよう（仕訳から集計の流れ） 第5回 簿記を使って記録してみよう（設問への取り組み） 第6回 報告書を作ってみよう（今までのまとめ） 第7回 現金とはなにか？ 第8回 商品売上のしくみ 第9回 商品売上のしくみ実践 第10回 手形取引 第11回 固定資産の売買とその処理 第12回 その場面ではこの仕訳（固定資産など） 第13回 その場面ではこの仕訳（その他の債権債務） 第14回 その場面ではこの仕訳（資本金・税金・貸倒引当金など） 第15回 総まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	予習をするより、毎回の授業の内容を理解するようにテキストを読んでください。 参考資料も配布しますので、ぜひやってみてください。（学習時間週1時間）						
授業方法	テキストとして、知る・わかる・わかる 『はじめての簿記入門』を利用して、授業を進めます。場合によっては、補充プリント等を配布することで、授業の理解度を深めてもらいます。 簿記は、積み上げですので、できるかぎり出席をしてください。授業中の演習を含めて、授業中での理解を深めてもらいます。 参加型の授業を目指していますので、授業中の発言に対して、加点します。どんどん発言してください。（正解不正解は関係ありません） 簿記・会計の実践を続けて受講することで、日本商工会議所主催の簿記検定試験3級の合格レベルへ到達する予定です。 【実務経験のある教員等による授業】 公認会計士として、財務諸表を作成に必要な基礎知識として簿記・会計の基礎を指導する。						
評価基準と評価方法	平常点（授業中の発表、小テスト）50%、定期試験（前期、後期）50%						
履修上の注意	簿記は知識の積み重ねが重要ですので、できる限り出席をすること。						

教科書	知る・わかる・わかる はじめての簿記入門』平成29年2月改定版（セルバ出版）
参考書	特に無し。

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	簿記・会計の実践／簿記・会計B						
担当教員	中村 智佐					科目ナンバ-	Z21070
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	「簿記・会計の基礎」の内容を踏まえて、日商簿記検定試験に挑戦できるレベルの知識を達成する						
授業の概要	この授業では、会社活動とお金儲けの仕組みを勉強します。経営者は、お金の動きについて記録し財務諸表という報告書を作成し報告する義務があります。その報告書作成に必要な知識が簿記です。簿記に慣れ親しめるように、できるだけやさしい言葉で解説します。簿記は続けて学習することが大切であり、自己トレーニングも必要です。「簿記・会計の基礎」の知識を生かしつつ、授業中に配布の問題や参考図書の問題集に取り組むことで、日商簿記検定試験3級合格レベルの力をつけていきます。						
到達目標	授業を受け、日々の簿記の練習を行うことによって日商簿記検定試験3級合格レベルに到達できる						
授業計画	第1回 オリエンテーション、簿記・会計の基礎の復習 第2回 簿記一巡 第3回 試算表のしくみ 第4回 決算の手続（決算の流れ、決算修正） 第5回 決算の手続（決算整理作業、経過勘定科目） 第6回 決算の手続（決算整理作業 減価償却、貸倒引当金） 第7回 決算の手続（決算整理作業 売上原価、消耗品の処理） 第8回 決算の手続～帳簿の締切 第9回 次年度への準備 第10回 貸借対照表・損益計算書の作成 第11回 伝票会計 第12回 帳簿組織（商品有高帳の記入） 第13回 決算整理仕訳と合計残高試算表の復習 第14回 貸借対照表・損益計算書の復習 第15回 総まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	簿記検定は慣れが必要です。そのためには、日ごろから、課題等を含め、自身での練習が必要です。（学習時間週1時間）						
授業方法	テキストとして、『知る・わかる・わかる はじめての簿記入門』を利用して、授業を進めます。場合によっては、補充プリント等を配布することで、授業の理解度を深めてもらいます。授業⇒演習と繰り返して、理解力をアップを図ります。簿記は、積み上げですので、できるかぎり出席をしてください。授業中の演習を含めて、授業中での理解を深めてもらいます。 本講座は、簿記に関する基礎知識を習得していることを前提として、授業を行いますので、「簿記・会計の基礎」の受講者もしくは、高校等で簿記会計に関する授業の経験者のレベルに設定して、授業と演習を繰り返して行います。 授業を通じて、日本商工会議所主催の簿記検定試験3級の合格レベルへ到達する予定です。簿記は自己学習も必要です。このために、テキストと並行した問題集で問題演習を含めていただきます。 【実務経験のある教員等による授業】 公認会計士として、簿記・会計の基礎を学んだ後、さらに演習を通じて、日商簿記検定試験3級レベルに到達ことを目標としてトレーニングをする。						
評価基準と評価方法	評価は、授業中の発表（小テストを含む）、定期試験を加味して評価する。 平常点（授業中の発表、小テスト）60％程度、定期試験で40％程度						
履修上の注意	「簿記・会計の基礎」の履修者あるいは、それと同等以上の能力があると認められるものに限る。簿記は知識の積み重ねが重要ですので、できる限り授業に出席をすること。配布プリントは各回出席者のみに配布。欠席の時は翌週授業時に限り再配布。						
教科書	『知る・わかる・わかる はじめての簿記入門』平成29年2月改定版（セルバ出版）						

参考書	特に無し
-----	------